



令和8年度

市民アンケート実施結果(速報集計)

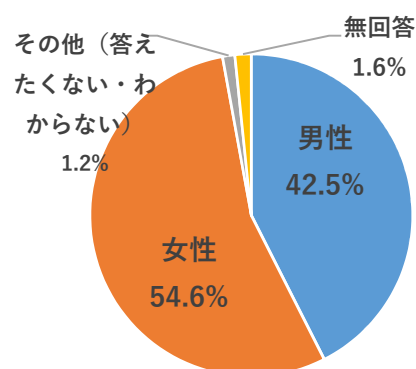
調査の概要

調査設計	◆調査対象 満 18 歳から 74 歳までの鹿角市民	◆実施方法 自治会長等を通じた配付と郵送回収及び Web 回答
	◆対象者数 900 人	◆調査期間 令和 8 年 5 月 28 日(木)～6 月 12 日(金)
	◆抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出	◆有効回答 489 人 (回答率 54.3%)
調査項目	1.市の政策について 2.運動の実施状況について 3.中心市街地について 4.公共交通について 5.コモッセの利用状況について 6.芸術鑑賞について 7.カーボンニュートラルについて 8.鹿角高校について 9.市の情報発信方法について 10.若者の居場所・学び・挑戦の拠点づくりについて 11.医療に対する意識について 12.まちの満足度について	

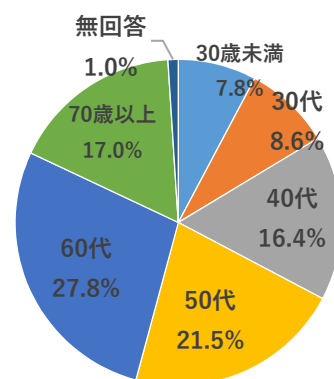
※ 基数となるべき実数 (N) は、設問に対する回答者数です。また、本文中の百分率は少数点第 2 位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が 100 にならない場合や複数の項目の数値の合計が本文中の数値と一致しない場合があります。

調査回答者の属性

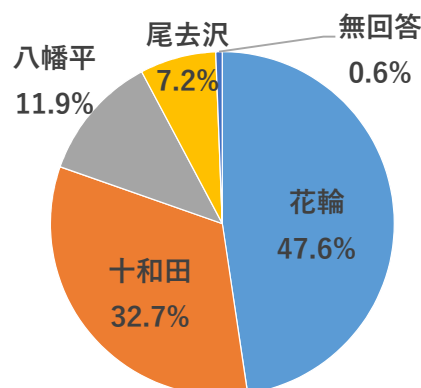
1 性別	回答者数	構成比
男 性	208	42.5%
女 性	267	54.6%
その他 (答えたくない・わからない)	6	1.2%
無回答	8	1.6%
計	489	100.0%



2 年代別	回答者数	構成比
30 歳未満	38	7.8%
30 代	42	8.6%
40 代	80	16.4%
50 代	105	21.5%
60 代	136	27.8%
70 歳以上	83	17.0%
無回答	5	1.0%
計	489	100.0%



3 地区別	回答者数	構成比
花 輪	233	47.6%
十和田	160	32.7%
八幡平	58	11.9%
尾去沢	35	7.2%
無回答	3	0.6%
計	489	100.0%



1 市の政策について

設問2 あなたは、市が進めてきた取組にどのくらい満足していますか。また、今後のまちづくりにとってどのくらい重要であると考えていますか。それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

【市が進めている取組に対する満足度】

第7次鹿角市総合計画前期基本計画の各戦略目標を達成するために定めた32の取組方針に関連する事柄について、5「満足」、4「やや満足」、3「普通」、2「やや不満」、1「不満」、0「わからない」の中から1つを選択する形式で「これまでの満足度」に関する状況を調査しています。

順位	取組方針	満足度スコア	回答者の割合						
			満足 (5)	やや満足 (4)	普通 (3)	やや不満 (2)	不満 (1)	わからない	無回答
1位	⑬ごみの適正処理と資源リサイクルの推進	3.38	13.9%	18.4%	51.1%	5.3%	3.1%	5.1%	3.1%
2位	④心身の健康づくり	3.28	9.4%	19.4%	49.7%	6.3%	3.7%	8.4%	3.1%
3位	⑩衛生的で良好な生活環境の確保	3.24	12.3%	18.0%	44.6%	9.2%	5.9%	6.7%	3.3%
4位	⑯火災や救急に対する体制強化の推進	3.22	6.1%	14.9%	57.7%	4.1%	2.2%	11.9%	3.1%
5位	⑳自ら学び、行動する社会人の支援	3.12	4.7%	13.9%	52.1%	7.6%	2.9%	15.1%	3.7%

市が進めている取組に対する満足度として最も高い評価を得たのは、「ごみの適正処理と資源リサイクルの推進」です。5点を満点として点数化した満足度のスコアは3.38、32.3%の人が満足・やや満足、51.1%の人が普通という評価をしています。

2番目に多く選ばれたのは、「心身の健康づくり」です。満足度のスコアは3.28、28.8%の人が満足・やや満足、49.7%の人が普通という評価をしています。

3番目に多く選ばれたのは「衛生的で良好な生活環境の確保」です。満足度のスコアは3.24、30.3%の人が満足・やや満足、44.6%の人が普通という評価をしています。

4番目は、「火災や救急に対する体制強化の推進」です。満足度のスコアは3.22、21.0%の人が満足・やや満足、57.7%の人が普通という評価をしています。

5番目は、「自ら学び、行動する社会人の支援」です。満足度のスコアは3.12、18.6%の人が満足・やや満足、52.1%の人が普通という評価をしています。

〔参考〕過去5年間の推移 ※R3より項目の表記を変更

順位	R2	R3	R4	R5	R6
1位	高齢者福祉の充実	ごみの適正処理と資源リサイクルの推進	ごみの適正処理と資源リサイクルの推進	ごみの適正処理と資源リサイクルの推進	ごみの適正処理と資源リサイクルの推進
2位	快適環境の創出	心身の健康づくり	心身の健康づくり	心身の健康づくり	心身の健康づくり
3位	子育て支援の充実	文化財の保存	衛生で良好な生活環境の確保	衛生的で良好な生活環境の確保	火災や救急に対する体制強化の推進
4位	水道水の安定供給	衛生的で良好な生活環境の確保	文化財の保存	文化財の保存	スポーツの力でまちの魅力向上
5位	健康づくりの推進 消防・救急体制の充実	火災や救急に対する体制の強化 防犯や交通安全の推進	緑と水の映えるまちの環境の保護	火災や救急に対する体制強化の推進	衛生的で良好な生活環境の確保

【今後のまちづくりに対する重要度】

第7次鹿角市総合計画前期基本計画の各戦略目標を達成するために定めた32の取組方針に関連する事柄について、5「重要」、4「やや重要」、3「普通」、2「あまり重要でない」、1「重要でない」、0「わからない」の中から1つを選択する形式で「これからの重要度」に関する状況を調査しています。

順位	取組方針	重要度スコア	回答者の割合						
			重要 (5)	やや重要 (4)	普通 (3)	あまり重要 でない(2)	重要でない (1)	わから ない	無回答
1位	⑤適切な医療を受けられる体制の整備	4.53	61.1%	21.3%	10.4%	0.4%	0.2%	1.8%	4.7%
2位	①地域産業の成長に対する支援	4.24	40.7%	28.4%	17.2%	0.8%	0.4%	8.2%	4.3%
3位	⑦地域ぐるみの子育て支援の充実	4.23	42.3%	25.8%	18.2%	1.0%	0.6%	6.7%	5.3%
4位	②市民等の意欲のある就労・就農への支援	4.21	40.9%	28.0%	18.0%	0.8%	0.8%	7.0%	4.5%
5位	③産業の担い手の確保	4.07	35.4%	26.6%	21.3%	2.7%	0.8%	8.6%	4.7%
	⑨子どもから青少年までの生きる力の育成		36.0%	24.7%	27.6%	0.8%	0.2%	5.1%	5.5%

今後のまちづくりに対する重要度として最も多くの方に選ばれたのは、「適切な医療を受けられる体制の整備」です。5点を満点として点数化した重要度のスコアは4.53、82.4%の人が重要・やや重要という評価をしています。

2番目に多く選択されたのは、「地域産業の成長に対する支援」です。重要度のスコアは4.24、69.1%の人が重要・やや重要という評価をしています。

3番目は「地域ぐるみの子育て支援の充実」で、重要度のスコアは4.23、68.1%の人が重要・やや重要という評価をしています。

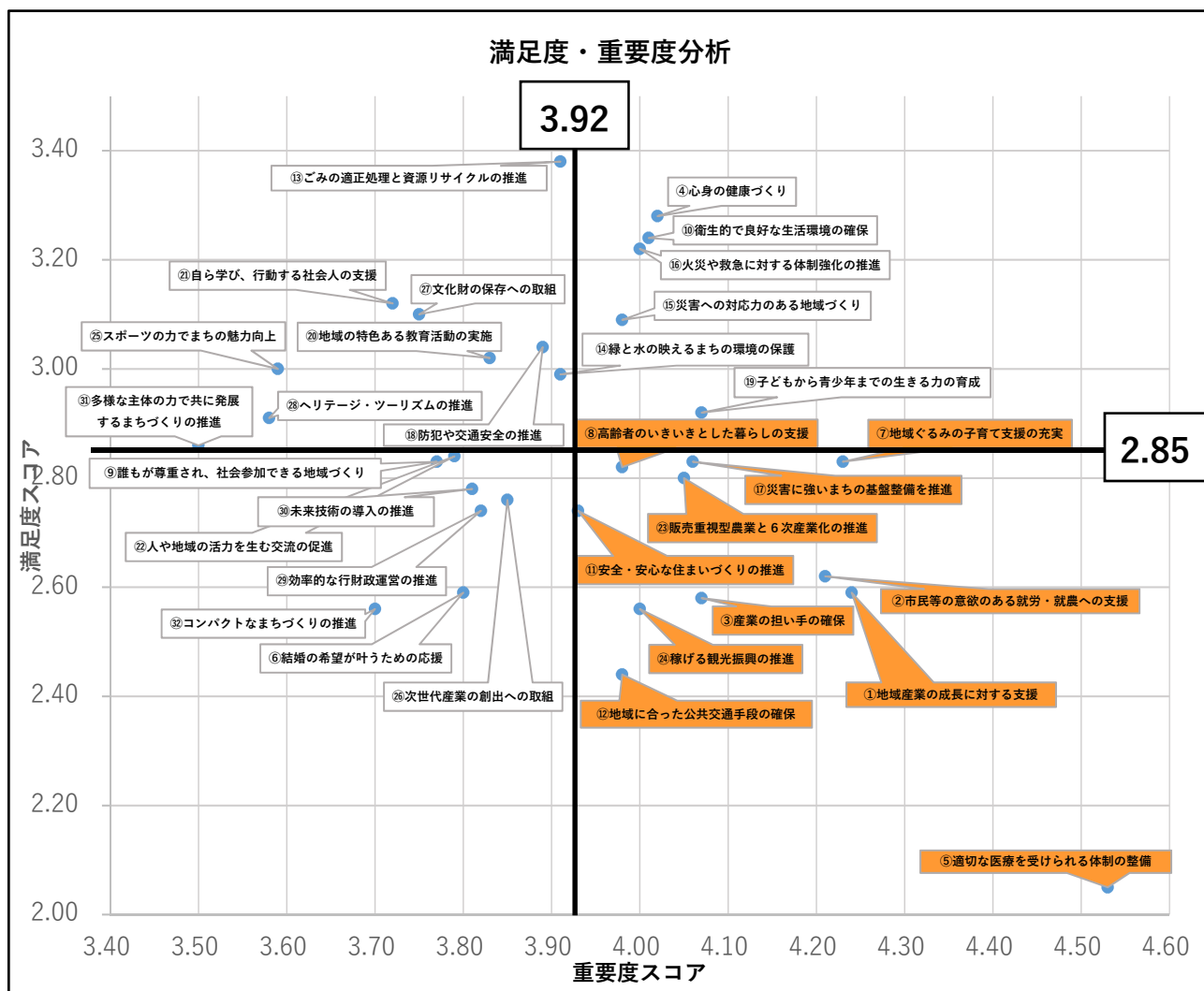
4番目は「市民等の意欲のある就労・就農への支援」で、重要度のスコアは4.21、68.9%の人が重要・やや重要という評価をしています。

5番目は「産業の担い手の確保」及び「子どもから青少年までの生きる力の育成」で、重要度のスコアは4.07、それぞれ62.0%、60.7%の人が重要・やや重要という評価をしています。

〔参考〕 過去5年間の推移 ※R3より項目の表記を変更

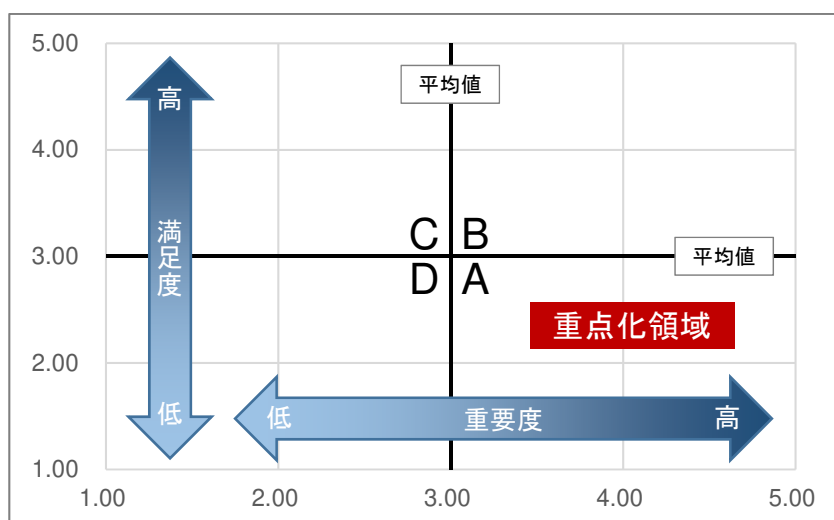
順位	R2	R3	R4	R5	R6
1位	地域医療体制の充実	適切な医療を受けられる体制の整備	適切な医療を受けられる体制の整備	適切な医療を受けられる体制の整備	適切な医療を受けられる体制の整備
2位	商店街の活性化	市民等の意欲のある就労・就農に対する支援	地域ぐるみの子育て支援の充実	市民等の意欲のある就労・就農に対する支援	市民等の意欲のある就労・就農への支援
3位	雇用の安定	地域産業の成長に対する支援	市民等の意欲のある就労・就農に対する支援	地域産業の成長に対する支援	地域ぐるみの子育て支援の充実
4位	地域産業の活性化	地域ぐるみの子育て支援の充実	子どもから青少年までの生きる力の育成	地域ぐるみの子育て支援の充実	地域産業の成長に対する支援
5位	公共交通の確保	子どもから青少年までの生きる力の育成	地域にあった公共交通手段の確保	子どもから青少年までの生きる力の育成	災害に強いまちの基盤整備の推進

【満足度・重要度のクロス分析】



【満足度・重要度をクロス分析する散布図の見方】

本市の 32 の取組方針における「満足度」と「重要度」の回答結果からそれぞれの平均を求め、縦軸に満足度、横軸に重要度を取り、散布図として表しています。散布図では、「満足度」と「重要度」の平均値から 4 つの領域に分けることができ、特に A 領域は市民の満足度が低く、かつ今後のまちづくりにとって重要度が高いと考えている「重点化領域」となり、重点的な改善が求められる分野となります。



満足度・重要度が共に平均値を上回るのは、「④心身の健康づくり」、「⑩衛生的で良好な生活環境の確保」、「⑭緑と水の映えるまちの環境の保護」、「⑮災害への対応力のある地域づくり」、「⑯火災や救急に対する体制の強化を推進」、「⑰子どもから青少年までの生きる力の育成」であり、今後も重点的に取組を継続していく分野といえます。

一方、平均値に対して満足度が下回り、重要度が上回るのは、「①地域産業の成長に対する支援」、「②市民等の意欲のある就労・就農の支援」、「③産業の担い手の確保」、「⑤適切な医療を受けられる体制の整備」、「⑦地域ぐるみの子育て支援の充実」、「⑧高齢者のいきいきとした暮らしの支援」、「⑪安全・安心な住まいづくりの推進」、「⑫地域に合った公共交通手段の確保」、「⑰災害に強いまちの基盤整備を推進」、「⑲販売重視型農業と6次産業化の推進」、「⑳稼げる観光振興の推進」の11項目でした。

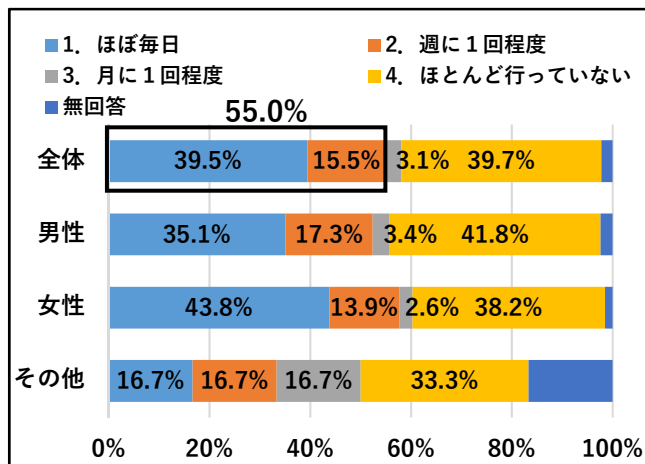
医師や医療従事者の不足が顕在化する中で、適切な医療を受けられる体制の整備や、子育て・高齢者福祉の充実については、地域の暮らしを守るため、必要な医療水準の維持と切れ目のない支援体制の確保が求められています。また、人口減少が進み、若者をはじめとする担い手の確保が難しくなる中、産業振興と産業人材の確保についても、市の重要な課題として市民に認識されています。加えて、安全・安心や防災など、住環境に関わる分野への関心も高まっています。

取組方針	満足度		重要度	
	スコア	順位	スコア	順位
①地域産業の成長を支援します	2.59	2 6 位	4.24	2 位
②市民等の意欲のある就労・就農を支援します	2.62	2 5 位	4.21	4 位
③市内外から産業の担い手を確保します	2.58	2 8 位	4.07	5 位
④心身の健康づくりに取り組みます	3.28	2 位	4.02	9 位
⑤適切な医療を受けられる体制を整えます	2.05	3 2 位	4.53	1 位
⑥結婚の希望が叶うよう応援します	2.59	2 7 位	3.80	2 4 位
⑦地域ぐるみの子育て支援を充実します	2.83	1 6 位	4.23	3 位
⑧高齢者のいきいきとした暮らしを支援します	2.82	1 9 位	3.98	1 3 位
⑨誰もが尊重され、社会参加できる地域をつくれます	2.83	1 7 位	3.77	2 6 位
⑩衛生的で良好な生活環境を確保します	3.24	3 位	4.01	1 0 位
⑪安全・安心な住まいづくりを進めます	2.74	2 3 位	3.93	1 6 位
⑫地域に合った公共交通手段を確保します	2.44	3 1 位	3.98	1 4 位
⑬ごみの適正処理と資源リサイクルを進めます	3.38	1 位	3.91	1 7 位
⑭緑と水の映えるまちの環境を守ります	2.99	1 1 位	3.91	1 8 位
⑮災害への対応力のある地域をつくれます	3.09	7 位	3.98	1 5 位
⑯火災や救急に対する体制の強化を進めます	3.22	4 位	4.00	1 1 位
⑰災害に強いまちの基盤整備を進めます	2.83	1 8 位	4.06	7 位
⑱防犯や交通安全を進めます	3.04	8 位	3.89	1 9 位
⑲子どもから青少年までの生きる力を育みます	2.92	1 2 位	4.07	6 位
⑳地域の特色ある教育活動を実施します	3.02	9 位	3.83	2 1 位
㉑自ら学び、行動する社会人を支援します	3.12	5 位	3.72	2 8 位
㉒人や地域の活力を生む交流を促進します	2.84	1 5 位	3.79	2 5 位
㉓販売重視型農業と6次産業化を進めます	2.80	2 0 位	4.05	8 位
㉔稼げる観光振興を進めます	2.56	2 9 位	4.00	1 2 位
㉕スポーツの力でまちの魅力を高めます	3.00	1 0 位	3.59	3 0 位
㉖次世代産業の創出に取り組みます	2.76	2 2 位	3.85	2 0 位
㉗文化財の保存に取り組みます	3.10	6 位	3.75	2 7 位
㉘ヘリテージ・ツーリズムに取り組みます	2.91	1 3 位	3.58	3 1 位
㉙効率的な行財政運営を推進進めます	2.74	2 4 位	3.82	2 2 位
㉚未来技術の導入を進めます	2.78	2 1 位	3.81	2 3 位
㉛多様な主体の力で共に発展するまちづくりを進めます	2.86	1 4 位	3.50	3 2 位
㉜コンパクトなまちづくりを進めます	2.56	3 0 位	3.70	2 9 位

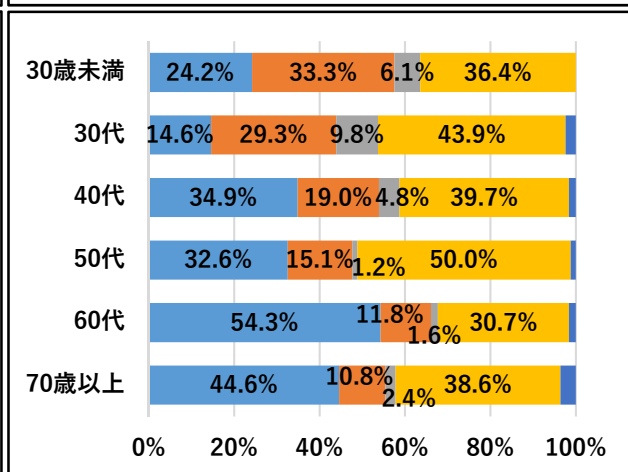
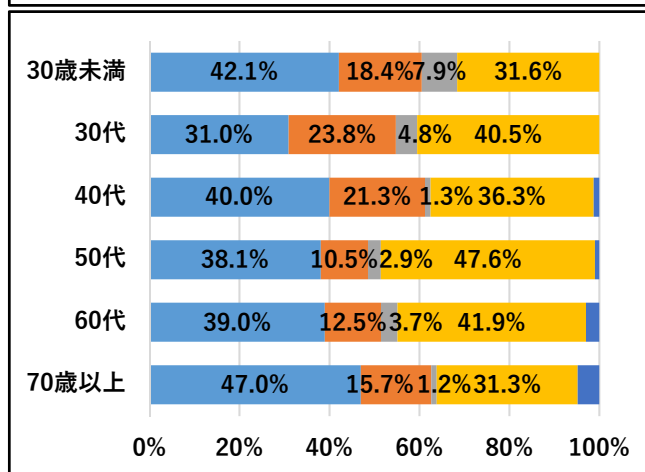
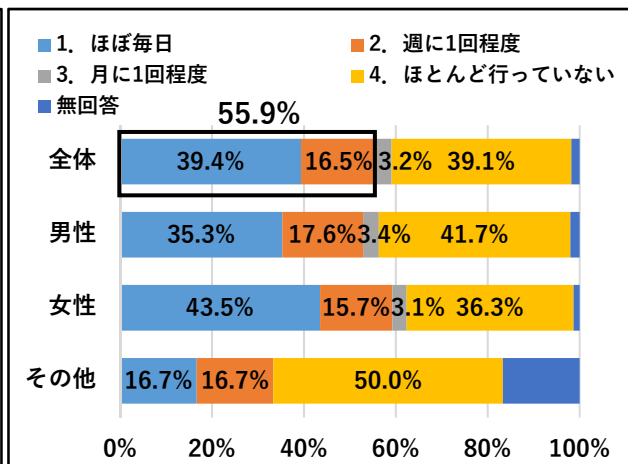
2 運動の実施状況について

設問3 あなたは、普段どれくらい「運動」（ウォーキングや軽い体操）や健康を意識した「生活活動」（農作業や家事、階段の上り下り等も含む）を行っていますか。また、1回あたりの時間はどれくらいですか。

R8 市民アンケート結果



(参考) R7 市民アンケート結果



【分析概要】

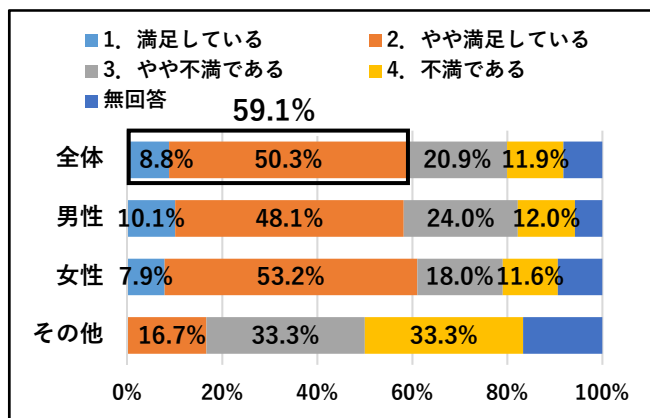
▶週1回以上、運動やスポーツを実施している市民の割合は、55.0%と昨年度を0.9ポイント下回りました。

▶一方、年代別では、60代以外は昨年度と比較して実施率は高くなっており、特に30歳代が10.9ポイント、40歳代が7.4ポイントそれぞれ増加しています。運動やスポーツ活動に対する意識が醸成され、一人ひとりの健康への関心が高まり、健康づくりの一環としてスポーツに取り組んでいるものと考えられます。

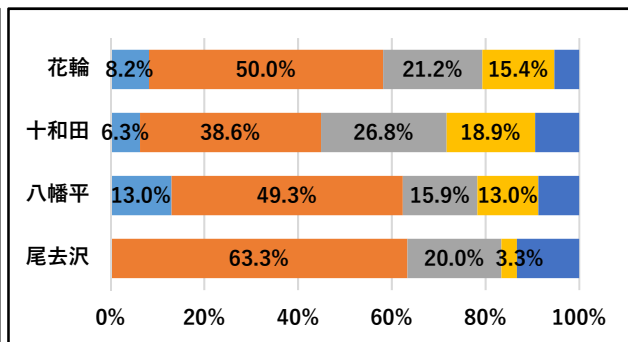
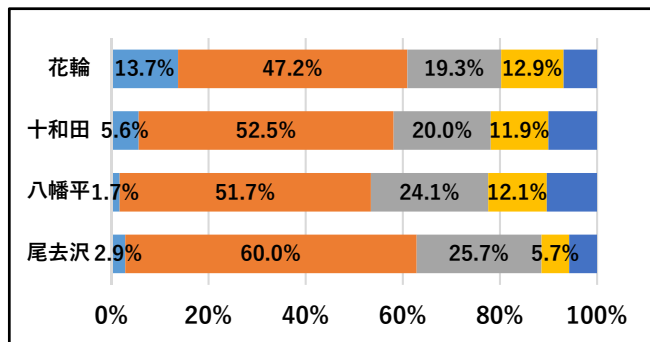
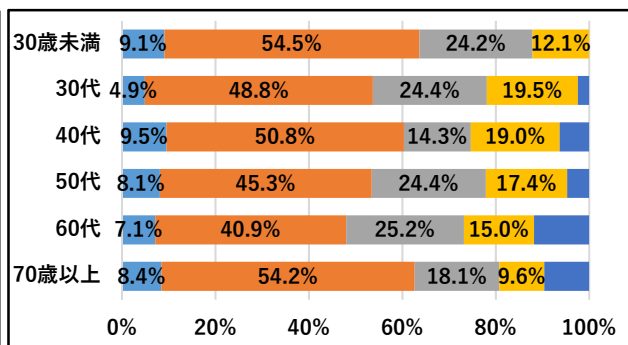
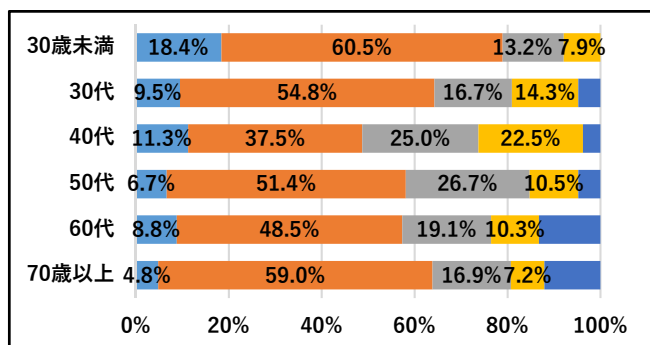
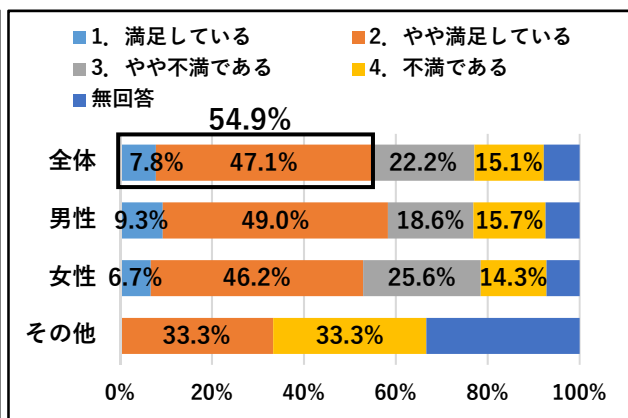
3 中心市街地について

設問4 あなたは、中心市街地の生活環境（住みごこちだけでなく、交通の便や公共施設の配置など中心地としてのまちの利便さ）に満足していますか。

R8 市民アンケート結果



(参考) R7 市民アンケート結果



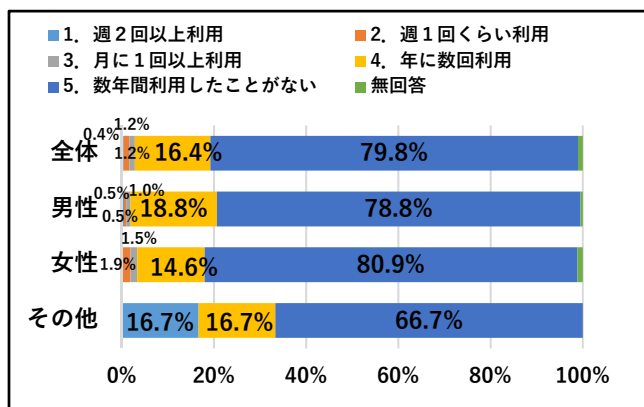
【分析概要】

- ▶男女別にみると、男性の満足度は58.2%で前年から0.1ポイント減少した一方、女性は61.1%で8.2ポイントの増加となりました。
- ▶年代別では、30歳未満の満足度が令和3年度以降最も高い78.9%となりました。30歳代についても昨年度から10.6ポイント増加の64.3%となり、若年層における満足度の向上が見られます。
- ▶地区別では、八幡平地区の満足度が53.4%と最も低く、昨年度から8.9ポイント減少しました。昨年度最も低かった十和田地区は58.1%となり、令和3年度以降最も高くなりました。
- ▶不満の理由としては、公共交通機関の不便さや駐車場の少なさといった交通面での課題が最も多く挙げられ、次いで、飲食店や商業施設の不足による「まちの活気のなさ」が指摘されています。

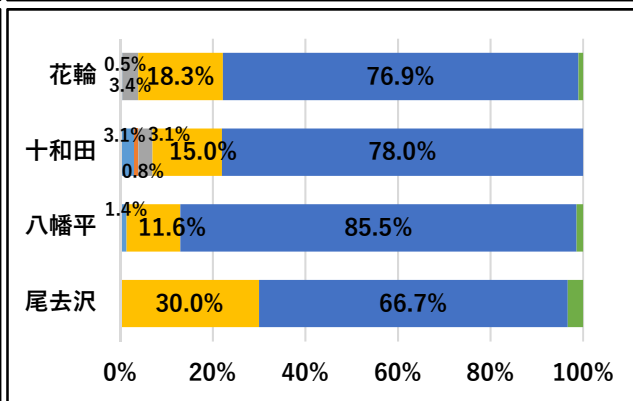
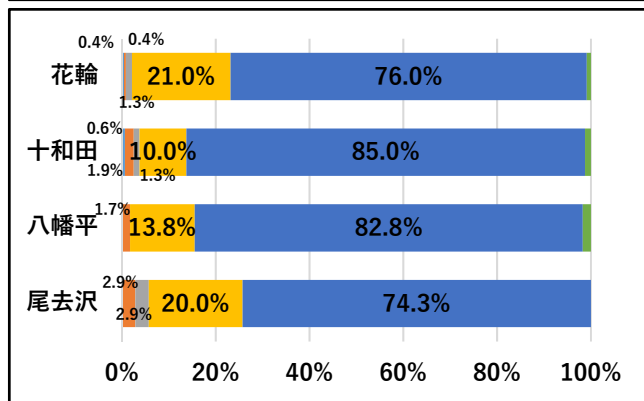
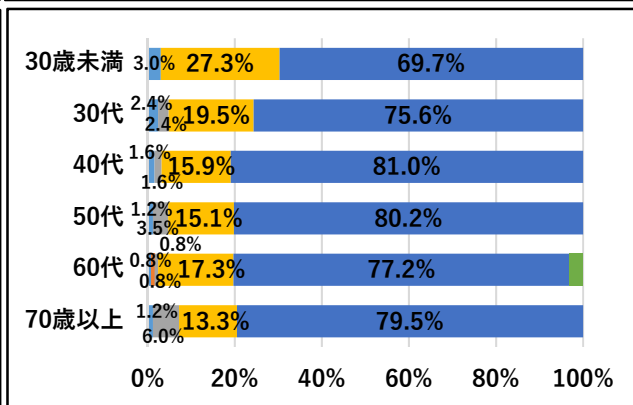
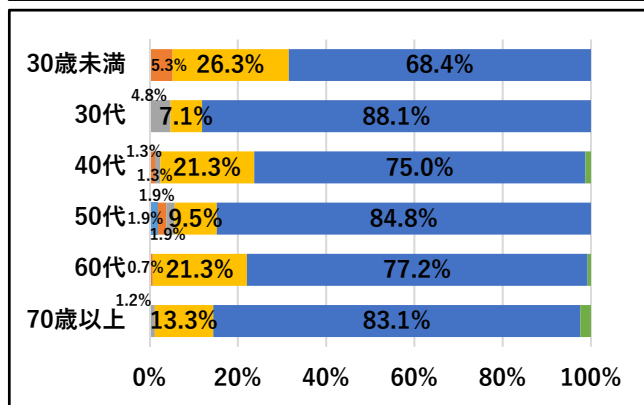
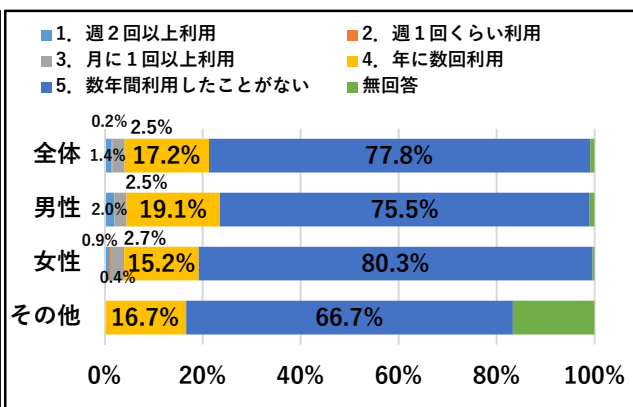
4 公共交通について

設問 5 ① バス（予約型乗合タクシーを含む）または鉄道（以下、「公共交通機関」といいます。）の利用頻度はどれくらいですか。

R8 市民アンケート結果



（参考）R7 市民アンケート結果



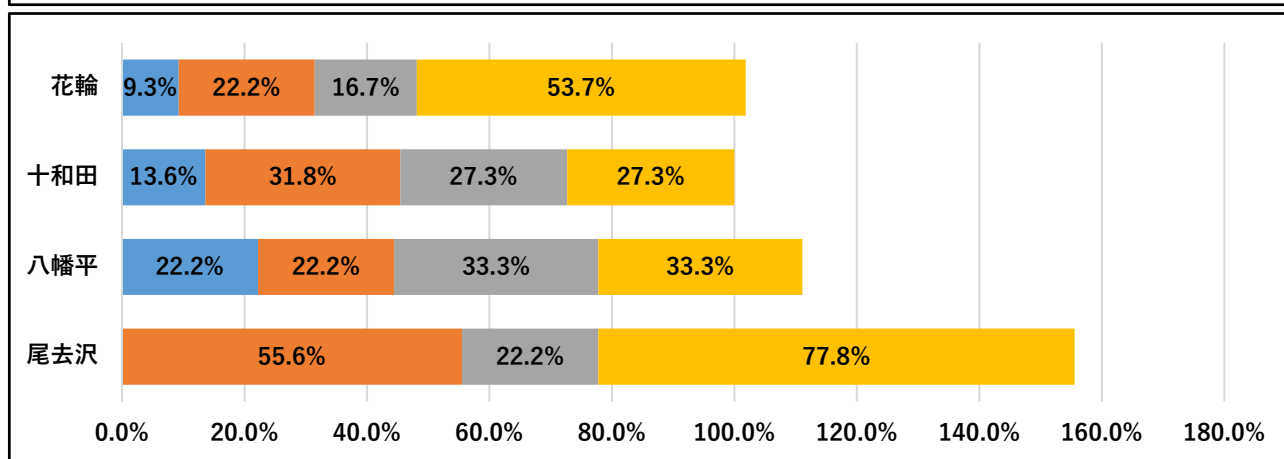
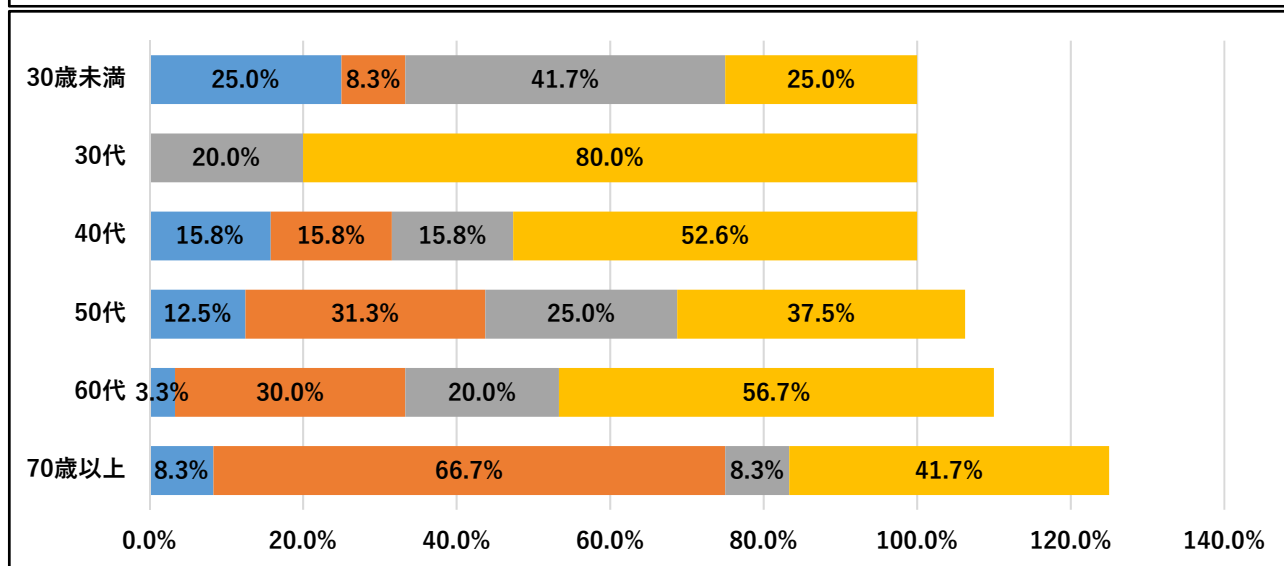
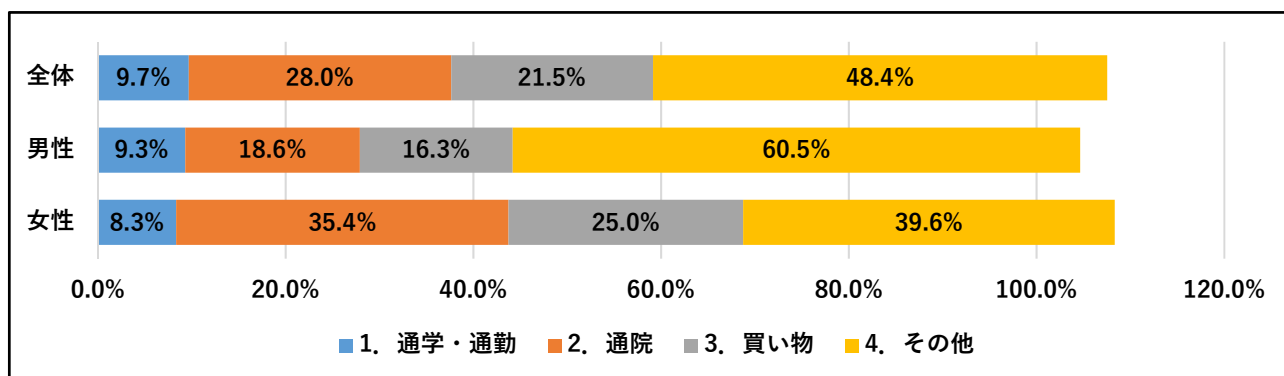
【分析概要】

▶公共交通機関を「数年間利用したことがない」と回答した方は 79.8%で、前回調査の 77.8%から 2.0 ポイント増加しています。「年に数回程度利用」の 16.4%と合わせて 9 割以上となり、自家用車を日常の移動手段とする傾向が継続しています。「週 2 回以上利用」は 1 ポイント減の 0.4%、「月に 1 回以上利用」も 1.3 ポイント減の 1.2%となり、定期的な利用者層の減少が進んでいます。

▶年代別では、利用頻度が少ない層（「年に数回」、「数年間利用なし」）の割合がすべての年代で 9 割を超えています。高齢層でも利用頻度は低く、公共交通が日常の移動手段として十分に機能しているとは言い難い状況です。

▶地区別では、「数年間利用したことがない」が十和田地区で 7.0 ポイント、尾去沢地区で 7.6 ポイント増加しており、両地区での非利用者が拡大しています。

【利用目的（n=94）】

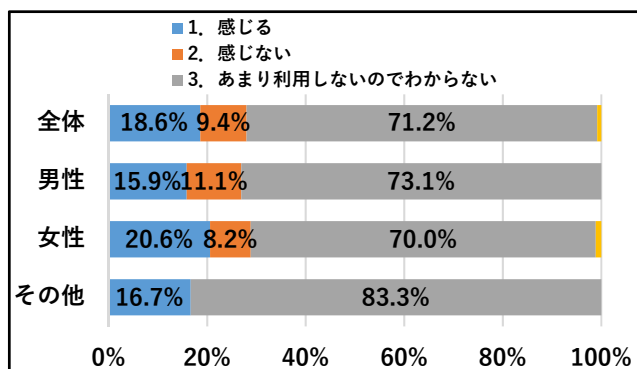


【分析概要】

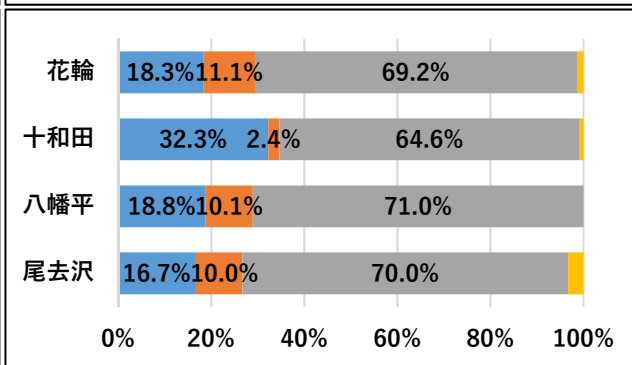
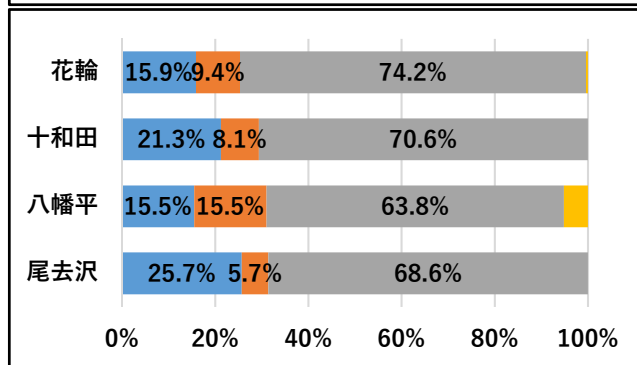
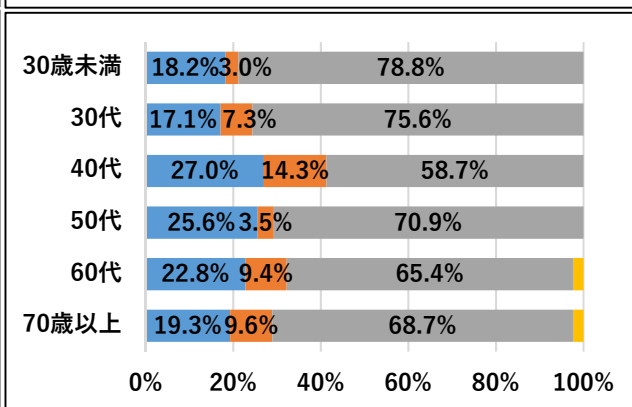
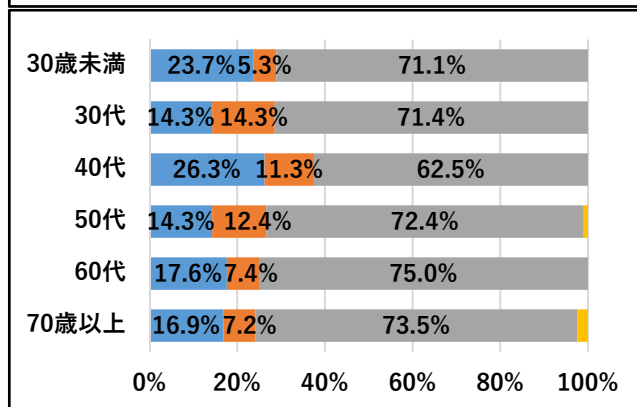
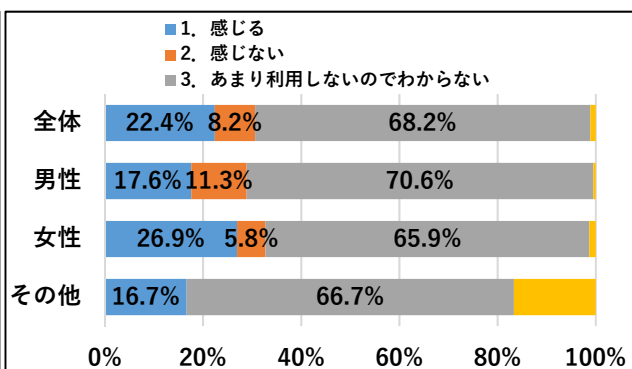
- ▶利用目的については、「通院」が28.0%で最も多く、前回調査の18.6%から9.4ポイント増加しています。次いで「買い物」が21.5%、「通学・通勤」が9.7%となっています。
- ▶「その他」の具体的な回答内容として、旅行や出張、帰省、飲酒後の移動などが挙げられており、日常的な利用よりも特定の機会の利用が中心となっています。
- ▶年代別では70歳以上の利用目的の66.7%が「通院」となっており、高齢層にとって重要な手段となっています。
- ▶地区別では、尾去沢地区で「通院」が55.6%と高く、通院を目的とした利用割合が高い地区となっています。

設問 5 ② あなたは、普段の生活で、公共交通機関による移動に不便を感じていますか。

R8 市民アンケート結果



(参考) R7 市民アンケート結果



【分析概要】

▶公共交通による移動に不便を「感じる」と回答した割合は18.6%で、前回調査の22.4%から3.8ポイント減少しています。一方、「あまり利用しないのでわからない」と回答した割合は3.0ポイント増加していることから、不便さの解消ではなく、利用しない方が増加したことによるものと考えられます。

▶男女別では女性20.6%、男性15.9%と、前回同様、女性の方が不便を感じる割合が高くなっています。

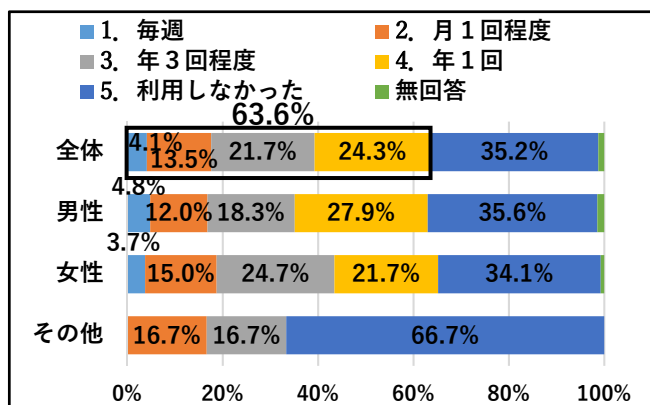
▶年代別では、50歳代で11.3ポイント減少した一方、30歳未満は5.5ポイント増加しています。40歳代では26.3%と最も高くなっており、日常的に移動の多い世代で不便を感じる状況が続いています。

▶地区別では、十和田地区で11.0ポイント減少していますが、不便さが解消したのではなく、利用しない方が増加していることが影響していると考えられます。一方、尾去沢地区は9.0ポイント増加しており、不便を感じる方が増加しています。

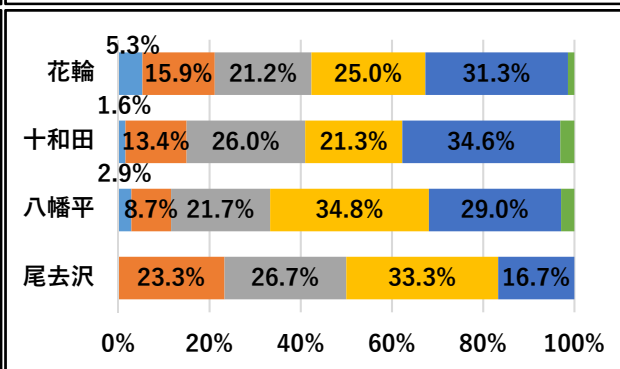
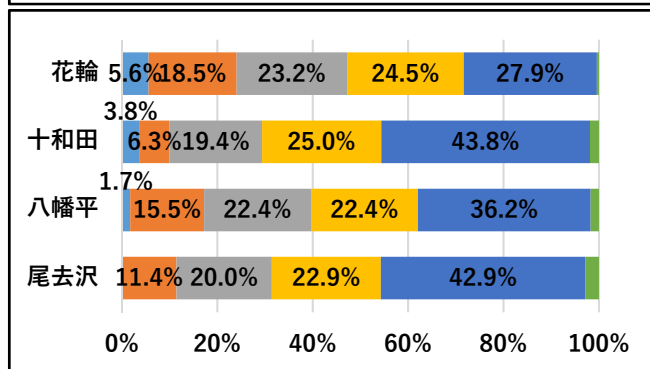
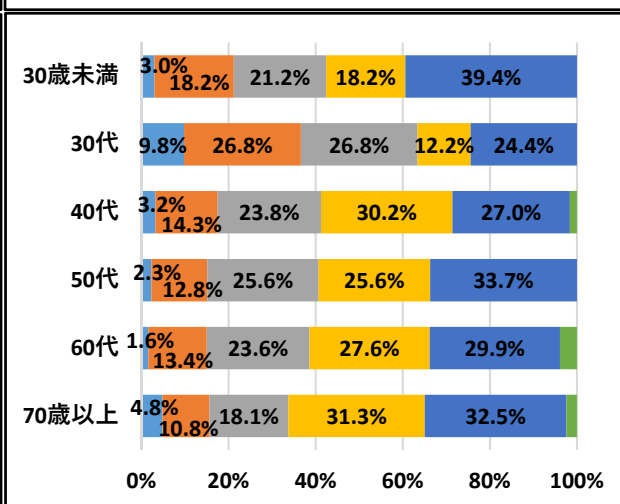
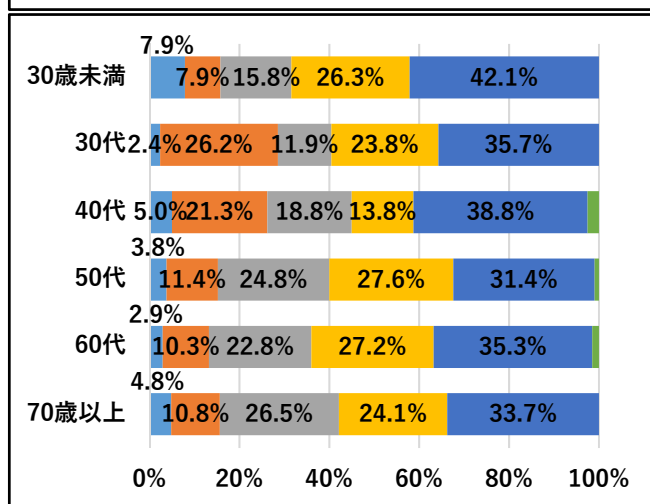
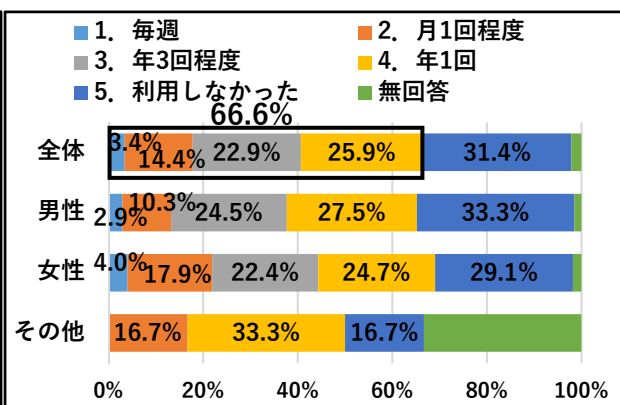
5 コモッセの利用状況について

設問6 あなたは、昨年度1年間にコモッセをどれくらい利用しましたか。

R8 市民アンケート結果



(参考) R7 市民アンケート結果



【分析概要】

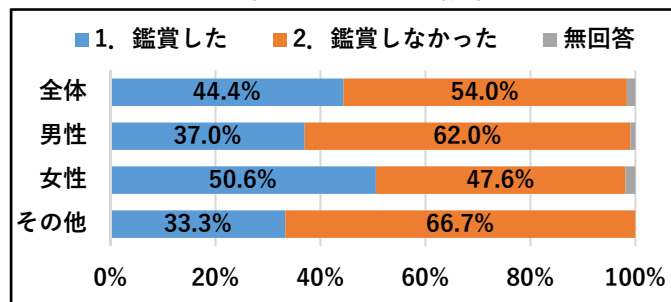
- ▶ コモッセを利用した人の割合は、全体で 63.6% となり、昨年より 3.0 ポイント減少しました。
- ▶ 男女別では女性が 65.1%、男性が 63.0% でした。
- ▶ 年代別では 50 歳代が 67.6% で 1.3 ポイント増えましたが、前回調査で 70% を超えていた 30 歳代と 40 歳代は、それぞれ 11.3 ポイント、12.6 ポイント減少しました。
- ▶ 地区別では、花輪地区が 71.8% で 4.4 ポイント高くなりましたが、八幡平地区、十和田地区、尾去沢地区では、昨年より減少となりました。

6 芸術鑑賞について

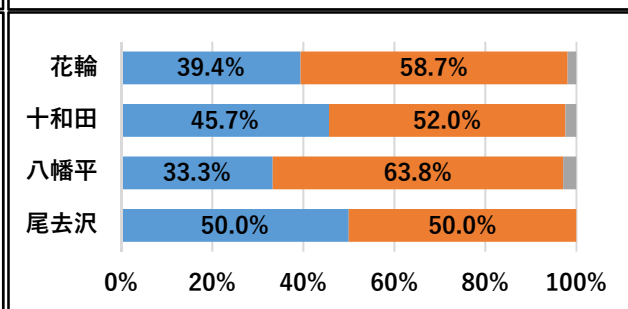
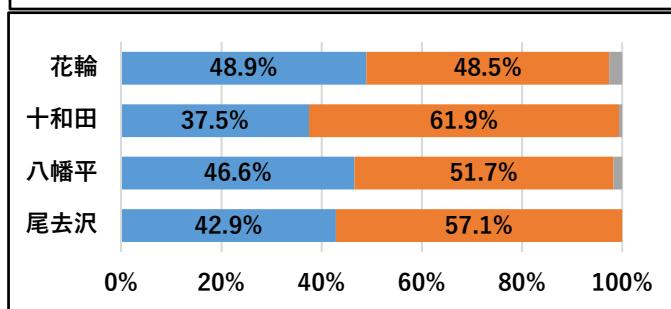
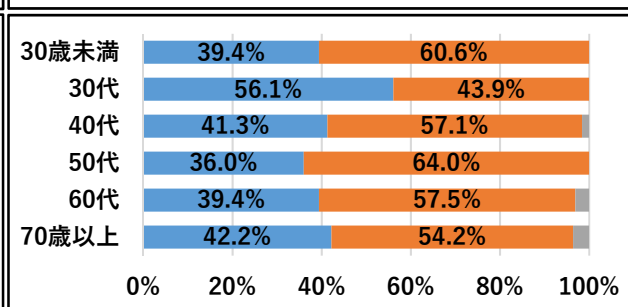
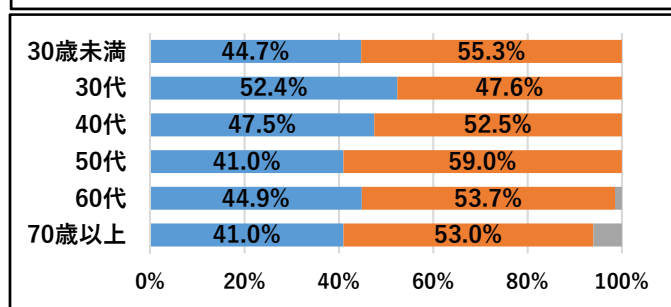
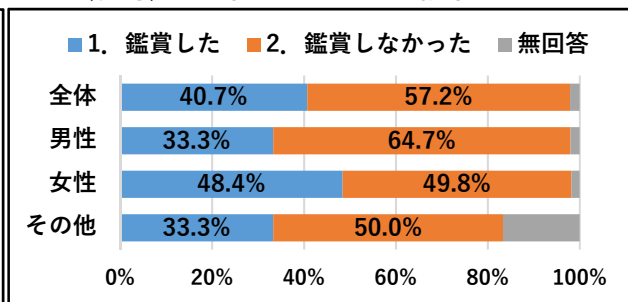
設問 7 あなたは、昨年 1 年間に市内外で文化芸術鑑賞（※）をしましたか。

※文化芸術とは、音楽、演劇、舞踊、映画、メディア（アニメーション、漫画）、美術館、展覧会、コモッセのギャラリー展示などを示します。

R8 市民アンケート結果



（参考）R7 市民アンケート結果

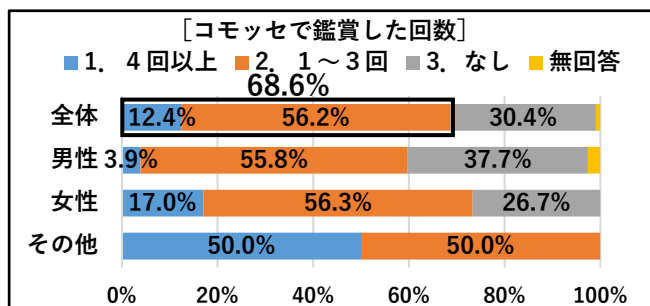


【分析概要】

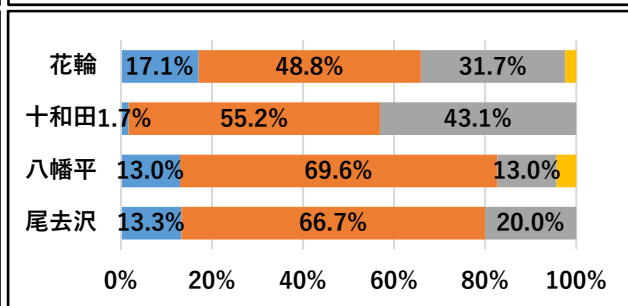
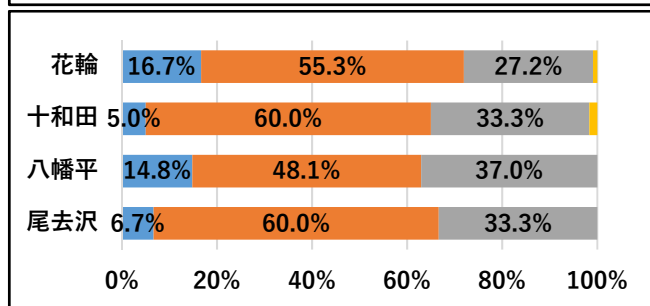
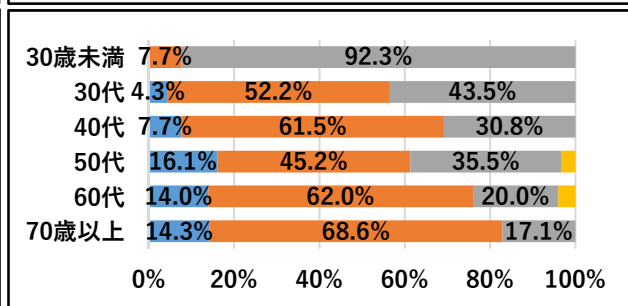
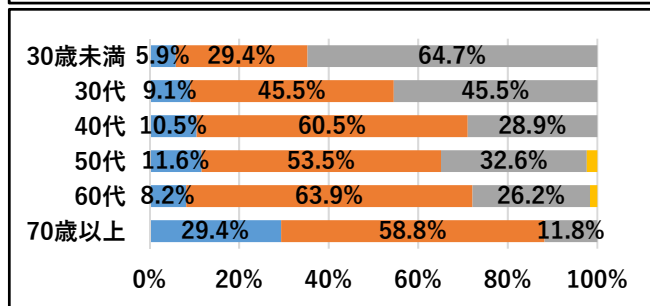
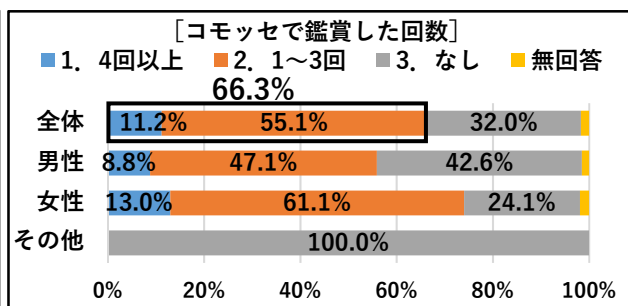
- ▶ 芸術鑑賞をした人の割合は 44.4% で昨年度より 3.7 ポイント増加しました。
- ▶ 年代別では 40 歳代が 47.5% で 6.2 ポイント増加した一方、30 歳代は 52.4% で 3.7 ポイント減少しました。他の年代では 70 歳以上を除き、それぞれ 5 ポイント程度増加しています。
- ▶ 地区別では花輪地区が 48.9%、八幡平地区が 46.6% となり、それぞれ 9.5 ポイント、13.3 ポイント増加しました。十和田地区と尾去沢地区は昨年度よりそれぞれ 8.2 ポイント、7.1 ポイント減少しました。

設問 7（続き） そのうちコモッセで何回鑑賞しましたか。

R8 市民アンケート結果（n=217）



（参考） R7 市民アンケート結果（n=178）



【分析概要】

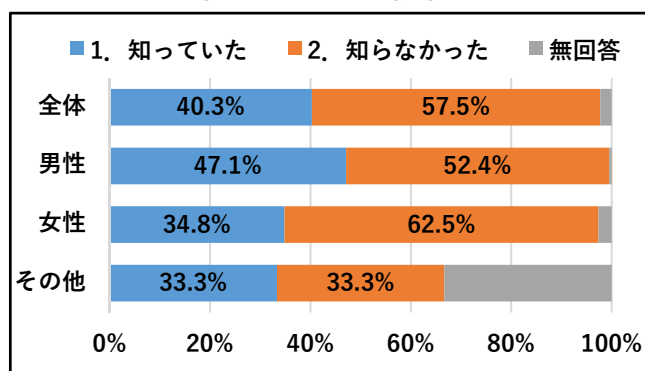
- ▶ 鑑賞した人のうち、コモッセで鑑賞した人の割合は 68.6%で昨年度より 2.3 ポイント増加しました。
- ▶ 男女別では女性が 73.3%で 0.8 ポイント減少し、男性は 59.7%で 3.8 ポイント増加しました。
- ▶ 年代別では 30 歳未満が 35.3%で昨年度より 27.6 ポイント増加し、30 歳代は 54.6%で昨年度より 1.9 ポイント減少しました。また、70 歳以上は 88.2%で 5.3 ポイント増加しました。30 歳未満の若い世代が関心を寄せる内容を検討する必要があります。
- ▶ 地区別では、八幡平地区、尾去沢地区で減少しました。

7 カーボンニュートラルについて

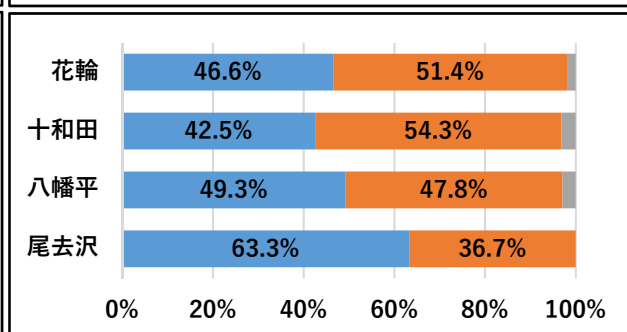
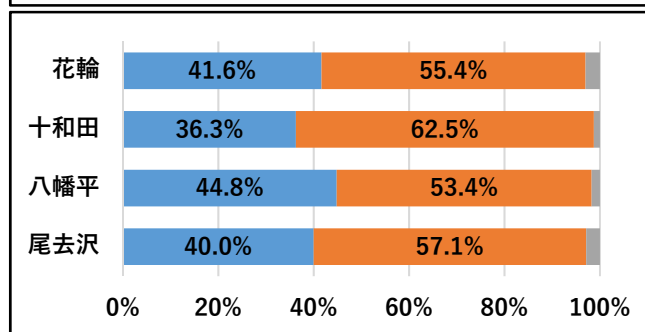
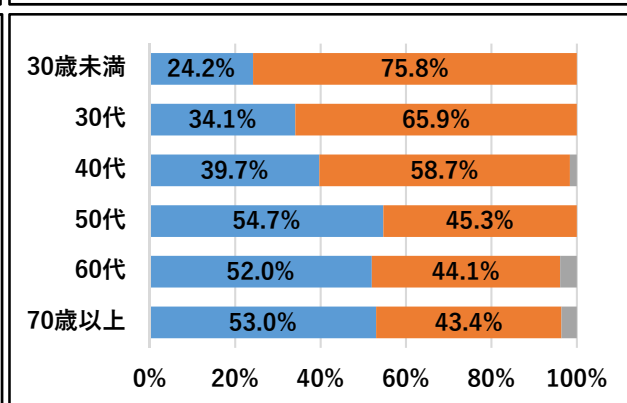
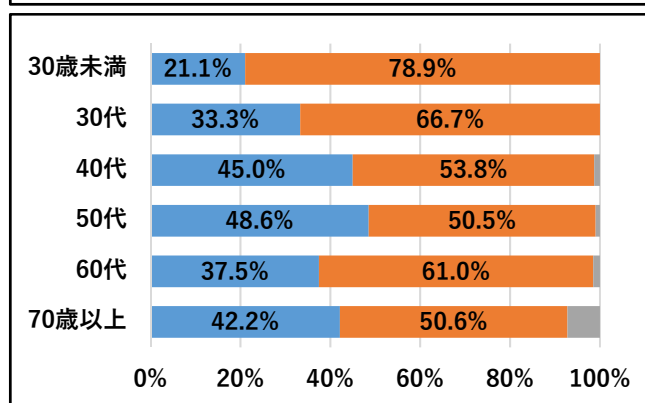
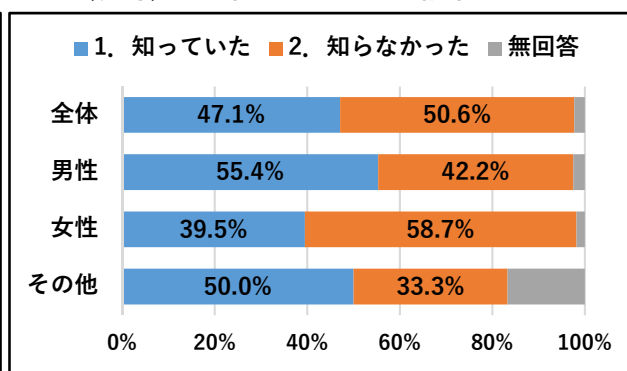
設問 8 ① 市では、2030 年までにカーボンニュートラル（※）を達成することを令和 4 年 3 月に宣言しました。このことを知っていましたか。

※地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出量と森林による吸収量のバランスをとることを言います。

R8 市民アンケート結果



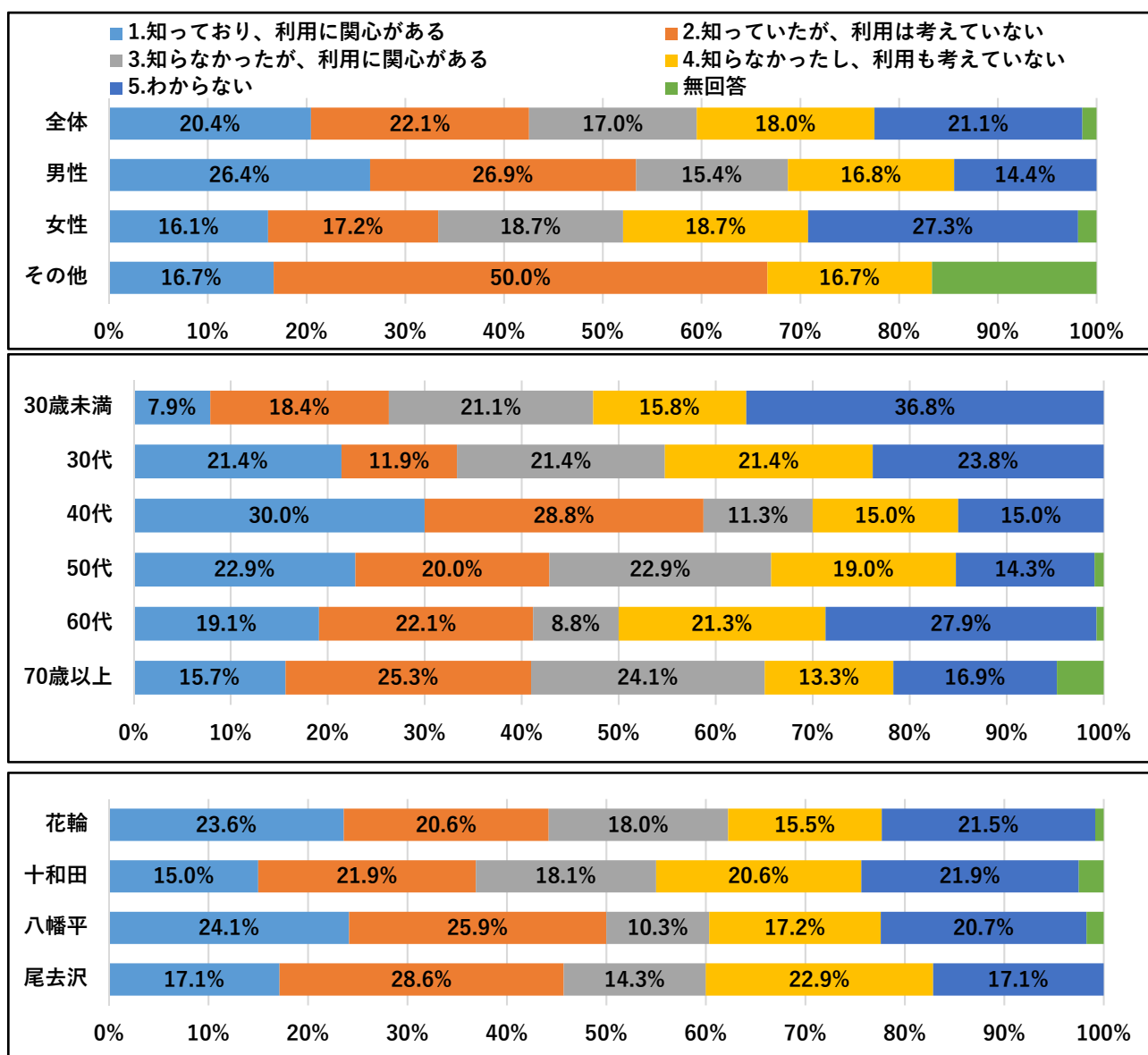
(参考) R7 市民アンケート結果



【分析概要】

- ▶「鹿角市 2030 ゼロ・カーボンシティ宣言」を知っている人の割合は 40.3 %で、昨年度と比較して 6.8 ポイント減少しました。
- ▶男女別では、男性の知っていた割合が 47.1 %で、前年度と比較して 8.3 ポイント減少しました。また、女性の知っていた割合が 34.8 %で、前年度と比較して 4.7 ポイント減少しました。
- ▶年代別では、40 歳代は昨年度と比較して 5.3 ポイント増加しましたが、その他すべての年代で昨年度を下回りました。
- ▶地区別では、すべての地区で昨年度を下回りましたが、前々年度以前は 30%台が続いていたことから、市内全体での認知度は上昇傾向にあると言えます。

設問 8 ② 地域電力会社「株式会社かづのパワー」が地元の水力、地熱、風力などの再生可能エネルギー由来の電気を公共施設だけでなく市内のご家庭や事業所にも供給しています。このことを知っていましたか。



【分析概要】

▶「かづのパワーが再エネ電力を市内に供給していること」について知っている人の割合は 42.5 % で、利用に関心のある人の割合が 37.4 % でした。

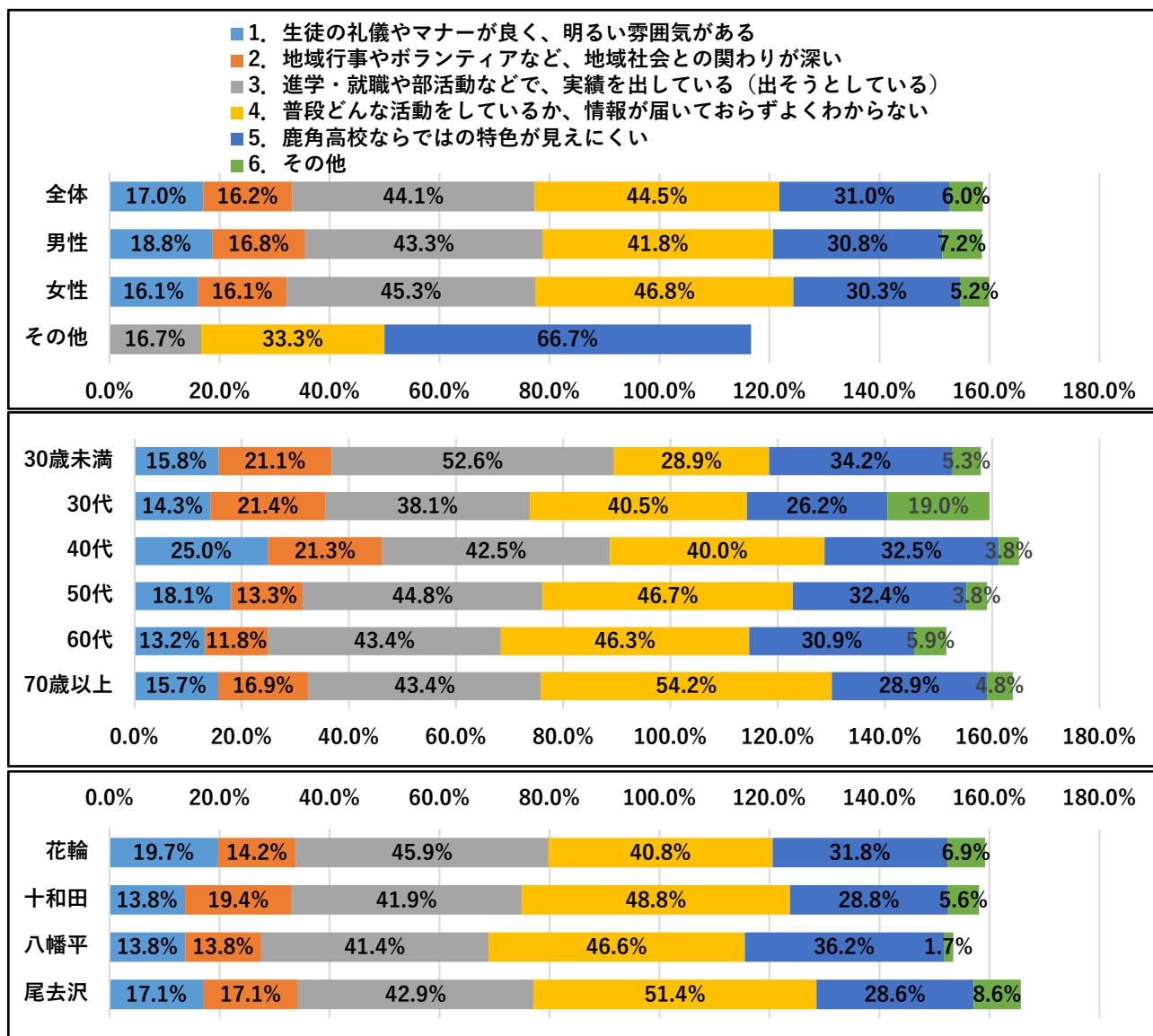
▶男女別では、男性の知っていた割合が 53.3% で、利用に関心のある人の割合が 41.8 % でした。また、女性の知っていた割合が 33.3 % で、利用に関心のある人の割合が 34.8 % となり、男性と比較して認知度と関心度が低くなっています。

▶年代別では、40 歳代の知っていた割合が 58.8% で最も高く、30 歳未満が 26.3% で最も低くなりました。また、利用に関心がある人の割合は 50 歳代の 45.8 % が最も高く、60 歳代が 27.9 % で最も低くなりました。

▶地区別では、知っていた割合が八幡平地区で 50.0 % と最も高く、十和田地区の 36.9 % が最も低いという結果でした。また、利用に関心がある人の割合は花輪地区の 41.6 % が最も高く、尾去沢地区で 31.4 % と最も低くなり、地区によって認知度と関心度に差が見られます。

8 鹿角高校について

設問 9 ① 現在の鹿角高校について、あなたはどのようなイメージや印象を持っていますか。あてはまるものを最大3つまで選択してください。(n=486)



【分析概要】

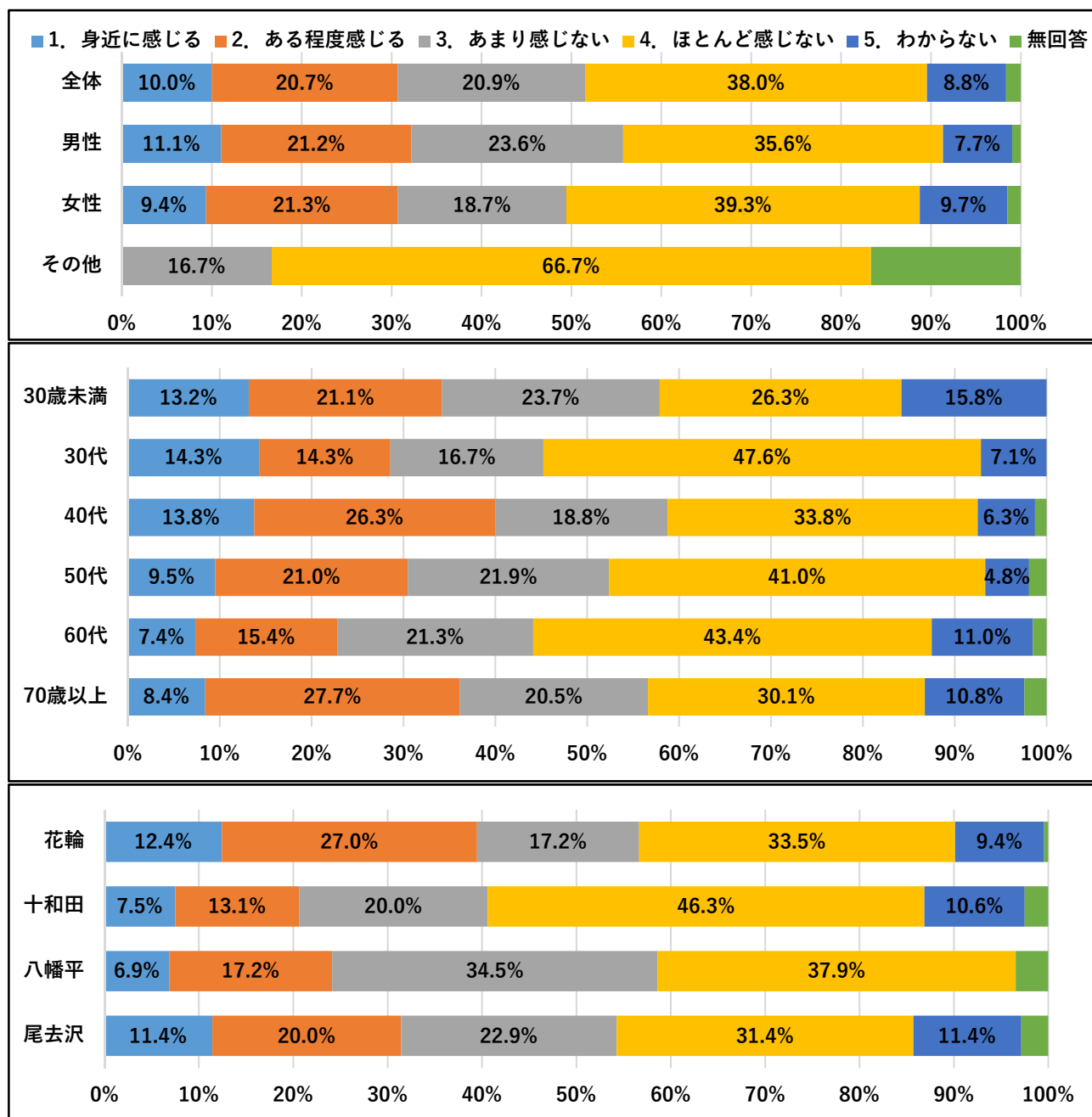
▶現在の鹿角高校のイメージについては、全体では「普段どんな活動をしているか、情報が届いておらずよくわからない」が44.5%で最も高く、次いで「進学・就職や部活動などで、実績を出している（出そうとしている）」が44.1%となりました。

▶年代別では、30歳未満で「進学・就職や部活動などで、実績を出している（出そうとしている）」が52.6%と最も高い一方、50歳代以上では「普段どんな活動をしているか、情報が届いておらずよくわからない」が最も高くなっています。

▶地区別では、花輪地区では「進学・就職や部活動などで、実績を出している（出そうとしている）」が45.9%で最も高くなりましたが、十和田地区、尾去沢地区、八幡平地区で「情報が届いておらずよくわからない」が最も高くなりました。

▶全体として、鹿角高校の実績は認識されている一方で、日頃の活動や特色に関する市民の受け止めには、地域や年代による差が見られます。

設問 9 ② あなたのお住まいの地域では、鹿角高校との関わりや高校生の存在を身近に感じますか。



【分析概要】

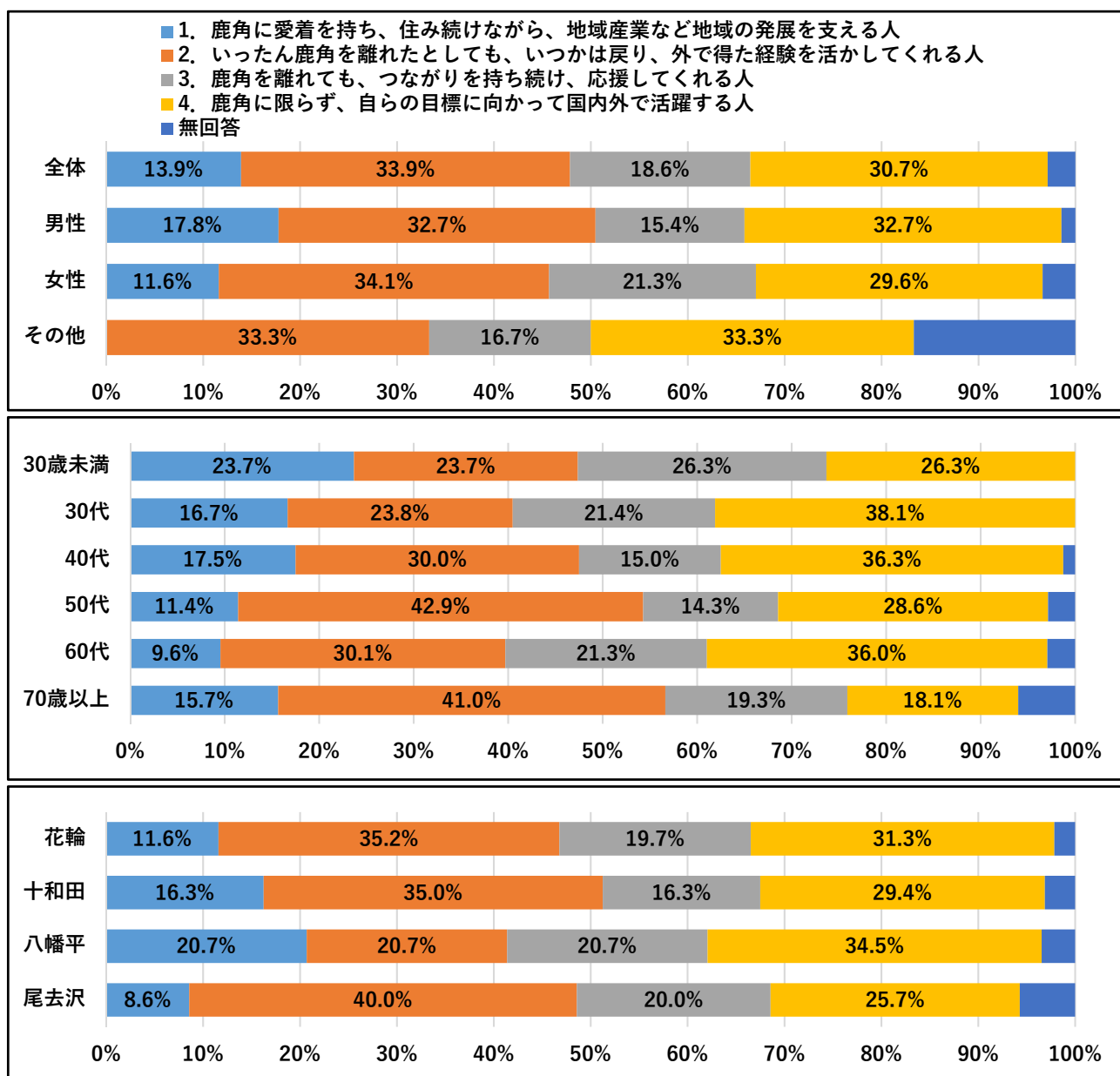
▶ 現鹿角高校との関わりや高校生の存在については、全体では「ほとんど感じない」が 38.0% で最も高く、次いで「あまり感じない」が 20.9% となり、「身近に感じる」「ある程度感じる」の合計 30.7% を上回りました。

▶ 年代別では、30 歳代で「ほとんど感じない」が 47.6% と最も高く、50 歳代、60 歳代でも 4 割を超えています。一方、30 歳未満では「ほとんど感じない」が 26.3% で、他の年代に比べて低くなっています。

▶ 地区別では、花輪地区では「身近に感じる」「ある程度感じる」の合計が 39.4% と他地区より高くなっている一方、十和田地区で「ほとんど感じない」が 46.3% と最も高くなっています。

▶ 高校との関わりを感じる方には年代や地域による差が見られ、特に鹿角高校が立地する花輪地区では他地区に比べ、より身近に感じられていることがわかりました。

設問 9 ③ 鹿角高校で学んだ生徒たちには、将来どのような大人になってほしいと思いますか。最も期待するものを1つ選択してください。



【分析概要】

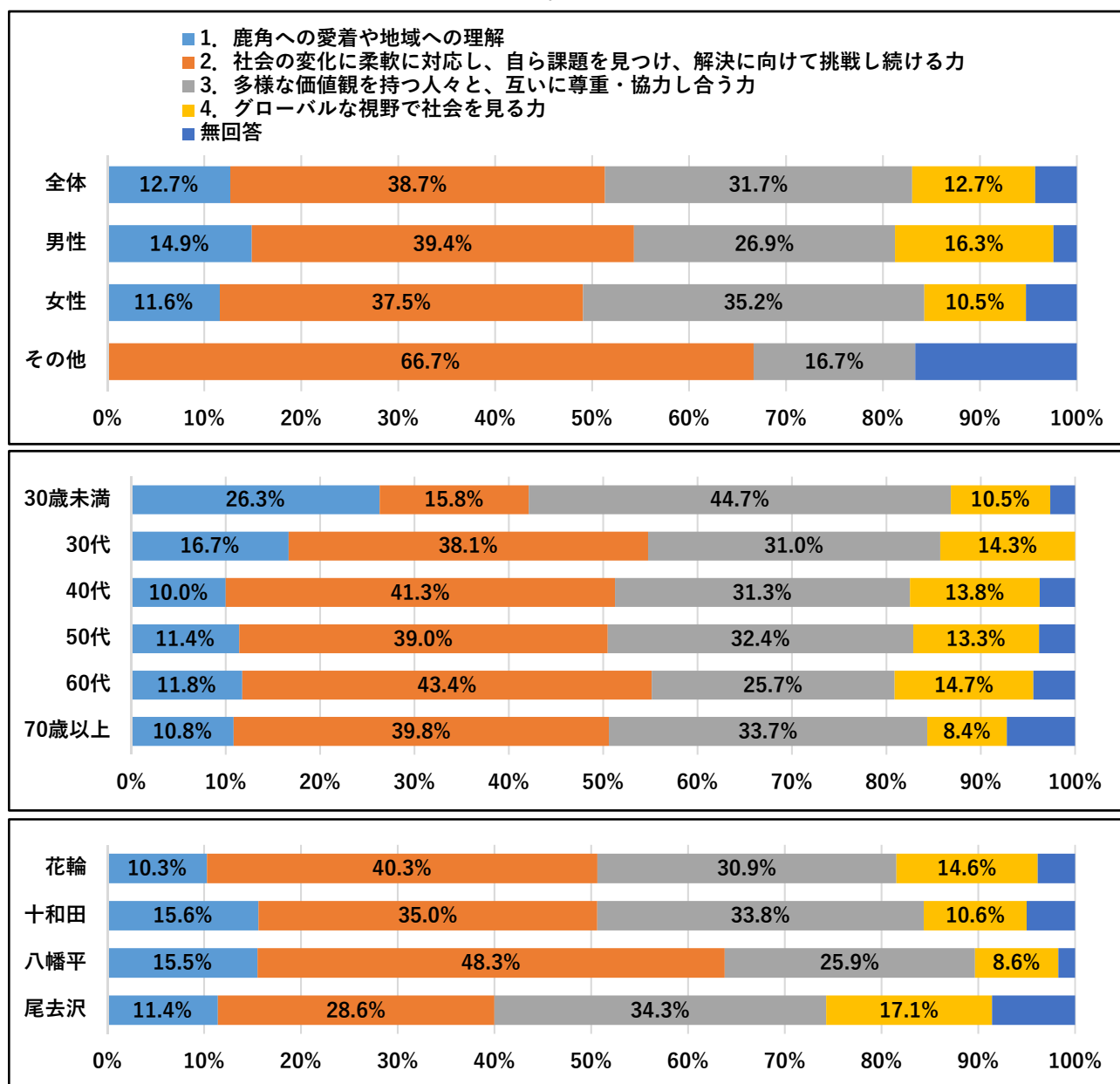
▶鹿角高校で学んだ生徒たちに期待する将来像については、全体では「いったん鹿角を離れたとしても、いつかは戻り、外で得た経験を活かしてくれる人」が33.9%で最も高く、次いで「鹿角に限らず、自らの目標に向かって国内外で活躍する人」が30.7%となりました。

▶年代別では、30歳代・40歳代・60歳代で「鹿角に限らず、自らの目標に向かって国内外で活躍する人」が最も高い一方、50歳代・70歳以上では「いつかは戻り、外で得た経験を活かしてくれる人」が最も高くなっています。

▶地区別では、花輪地区、十和田地区、尾去沢地区で「いったん鹿角を離れたとしても、いつかは戻り、外で得た経験を活かしてくれる人」が最も高く、八幡平地区では「鹿角に限らず、自らの目標に向かって国内外で活躍する人」が34.5%で最も高くなりました。

▶地域とのつながりを持ちながら、外で得た経験や広い視野を将来的に生かしてほしいという期待が、市民の中で比較的高いことがうかがえます。

設問 9 ④ 鹿角高校で学んだ生徒たちには、どのような力を身に付けてほしいと思いますか。最も期待するものを1つ選択してください。



【分析概要】

▶鹿角高校で学んだ生徒たちに身に付けてほしい力については、全体では「社会の変化に柔軟に対応し、自ら課題を見つけ、解決に向けて挑戦し続ける力」が38.7%で最も高く、次いで「多様な価値観を持つ人々と、互いに尊重・協力し合う力」が31.7%となりました。

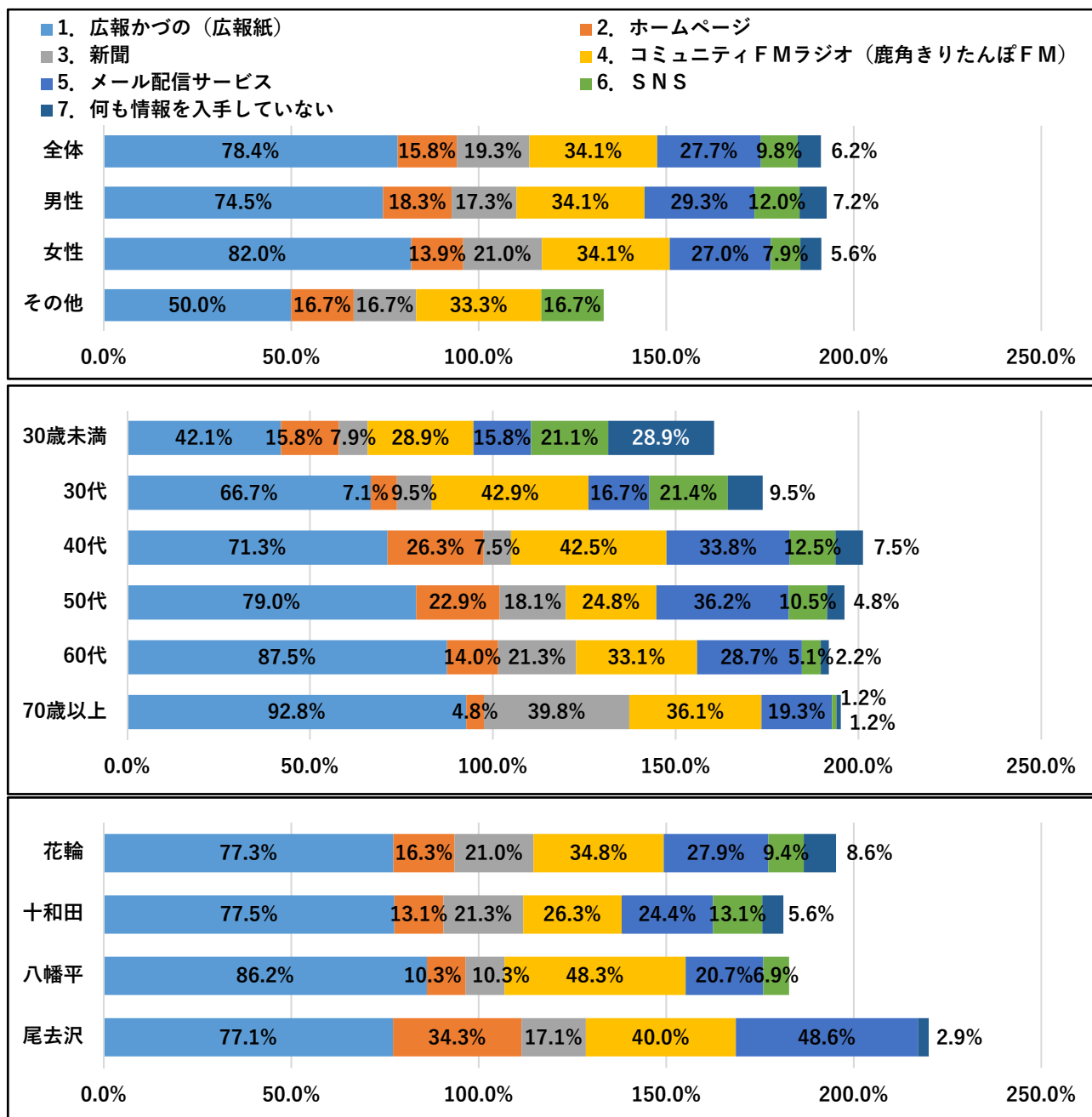
▶年代別では、30歳未満で「多様な価値観を持つ人々と、互いに尊重・協力し合う力」が44.7%で最も高い一方、30歳代以上では「社会の変化に柔軟に対応し、自ら課題を見つけ、解決に向けて挑戦し続ける力」が最も高くなっています。

▶地区別では、花輪地区、十和田地区、八幡平地区で「社会の変化に柔軟に対応し、自ら課題を見つけ、解決に向けて挑戦し続ける力」が最も高く、尾去沢地区では「多様な価値観を持つ人々と、互いに尊重・協力し合う力」が34.3%で最も高くなりました。

▶全体として、社会の変化に対応する柔軟性に加え、多様な人々と協力しながら社会の中で力を発揮できる力が重視されていることが分かります。

9 市の情報発信方法について

設問 10① あなたは市からの情報（お知らせ）を入手する手段として実際に利用し、欠かせないと感じているものはどれですか。（複数回答可）（n=486）

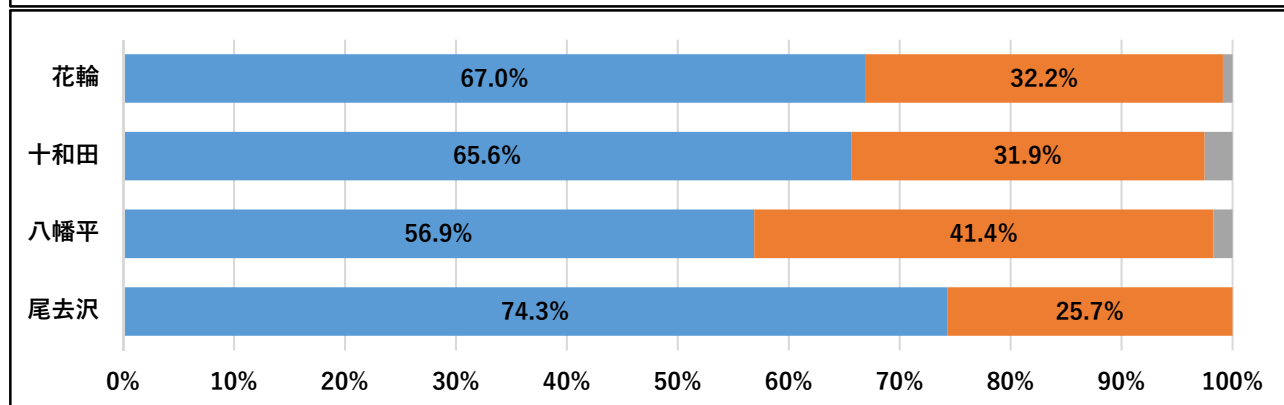
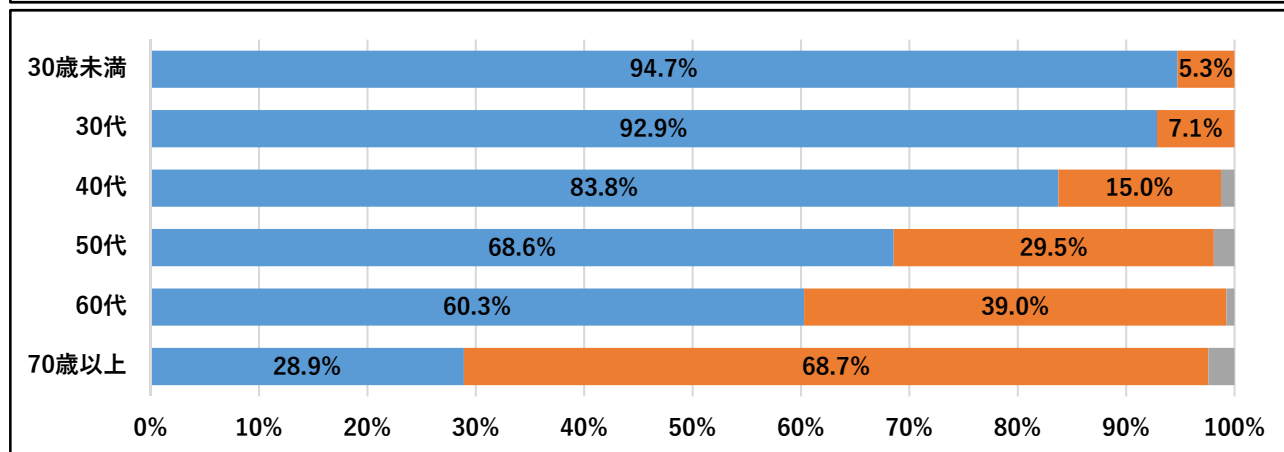
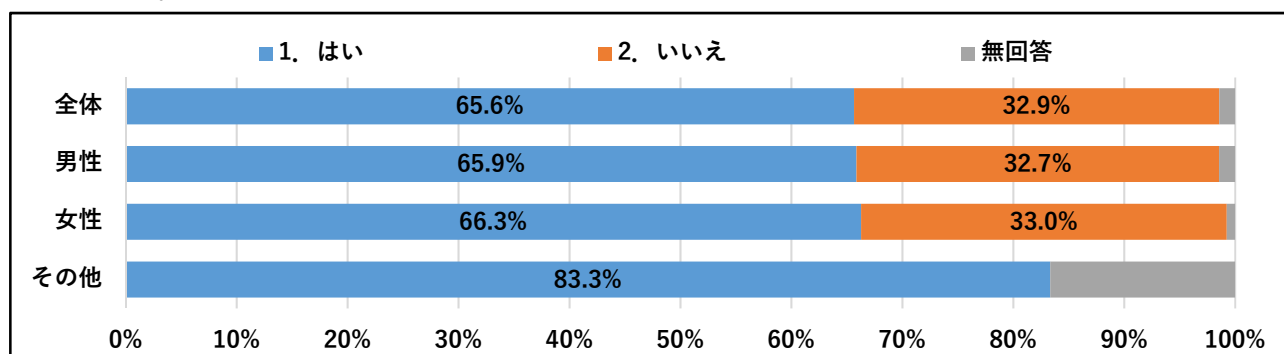


【分析概要】

▶全体では「広報かづの（広報紙）」が78.4%と最も高く、「コミュニティFMラジオ」34.1%、「メール配信サービス」27.7%、「新聞」19.3%、「ホームページ」15.8%、「SNS」9.8%と続きました。

▶年代別に見ると、傾向の差が顕著であり、「広報かづの」は年代が上がるほど利用率が高まり、70歳以上では92.8%に達する一方、30歳未満では42.1%にとどまっています。一方で「SNS」は、30歳未満21.1%、30歳代21.4%と若年層で高く、70歳以上では1.2%と大きな差が出ています。また「何も情報を入手していない」は30歳未満が28.9%と突出して高く、若年層への情報到達に課題があることがうかがえます。

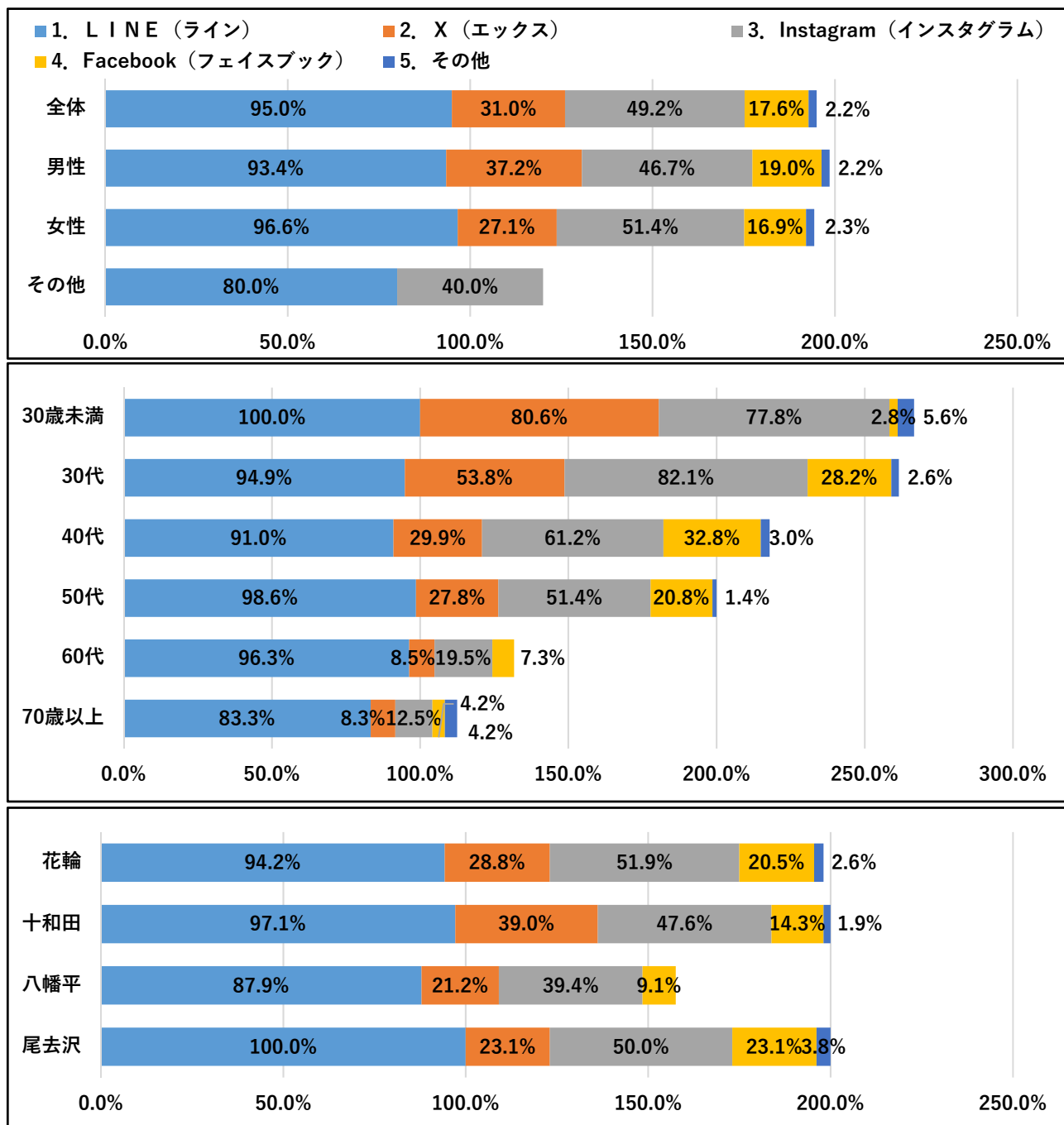
設問 10② あなたは現在、SNS（LINE、エックス、インスタグラムなど）を利用していますか。



【分析概要】

▶年代別では差が明確であり、SNS利用率は、30歳未満 94.7%、30歳代 92.9%と若年層で非常に高くなっている一方、年代が上がるにつれて低下し、70歳以上では 28.9%にとどまっています。

設問 10②（続き） それはどの SNS ですか。（複数選択可）（n=320）

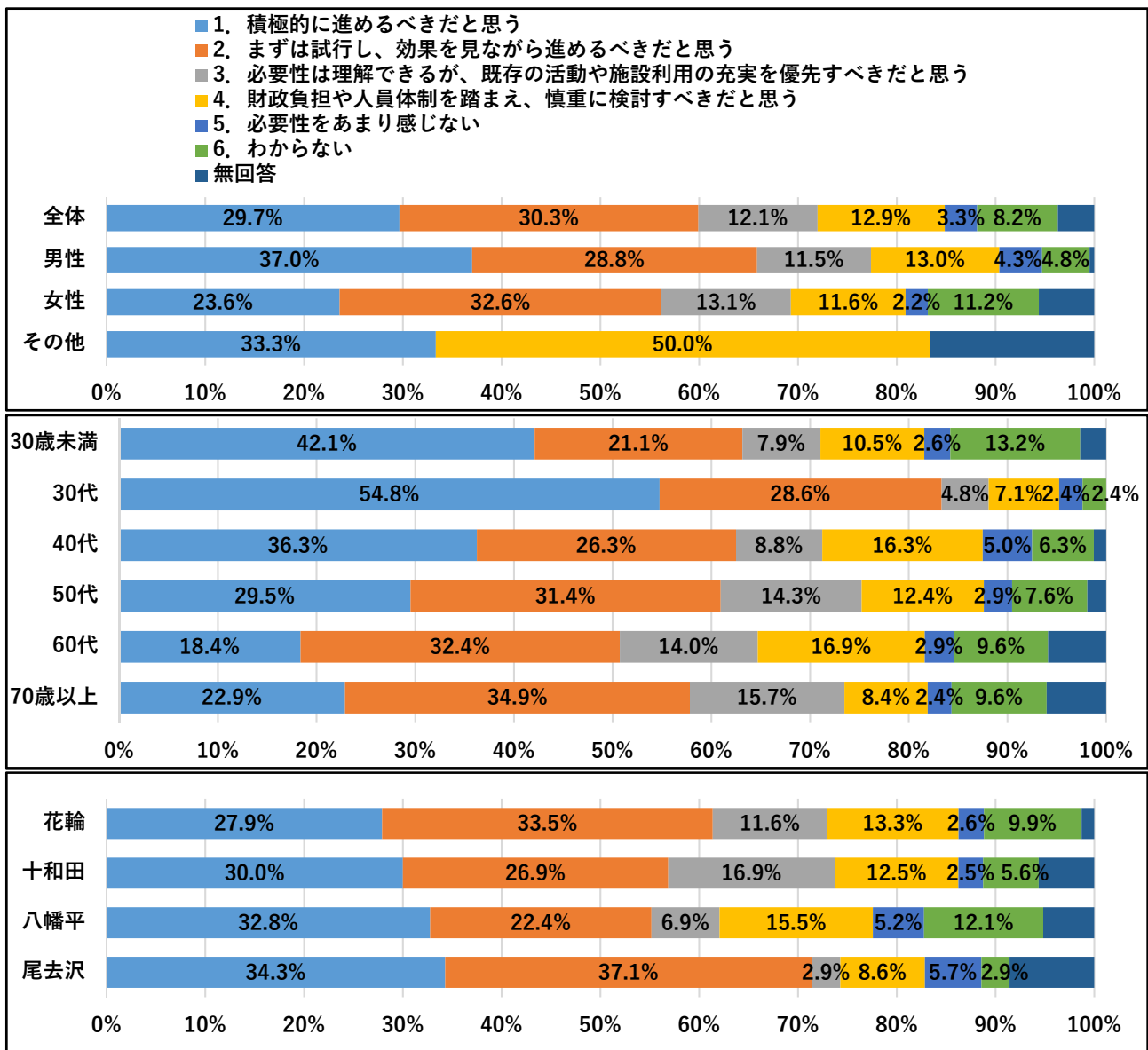


【分析概要】

- ▶利用している SNS は「LINE」が 95.0% で最も高く、次いで「Instagram」49.2%、「X」31.0%、「Facebook」17.6% となっています。
- ▶年代別にみると「Instagram」の利用率は、30 歳未満で 77.8%、30 歳代で 82.1% と、おおむね 8 割に達している一方、60 歳代では 19.5% まで低下しています。
- ▶「X」の利用率も 30 歳未満では 80.6% と高い一方、60 歳代では 8.5% にとどまり、年代による大きな差がみられます。
- ▶一方、「LINE」はすべての年代で 83% 以上となっており、世代を問わず広く利用されていることがうかがえます。

10 若者の居場所・学び・挑戦の拠点づくりについて

設問 11① 本市が、既存公共施設等を活用し、中高生や若者が安心して過ごし、学び・交流・挑戦できる場を試行することについて、あなたの考えに最も近いもの1つに○をつけてください。



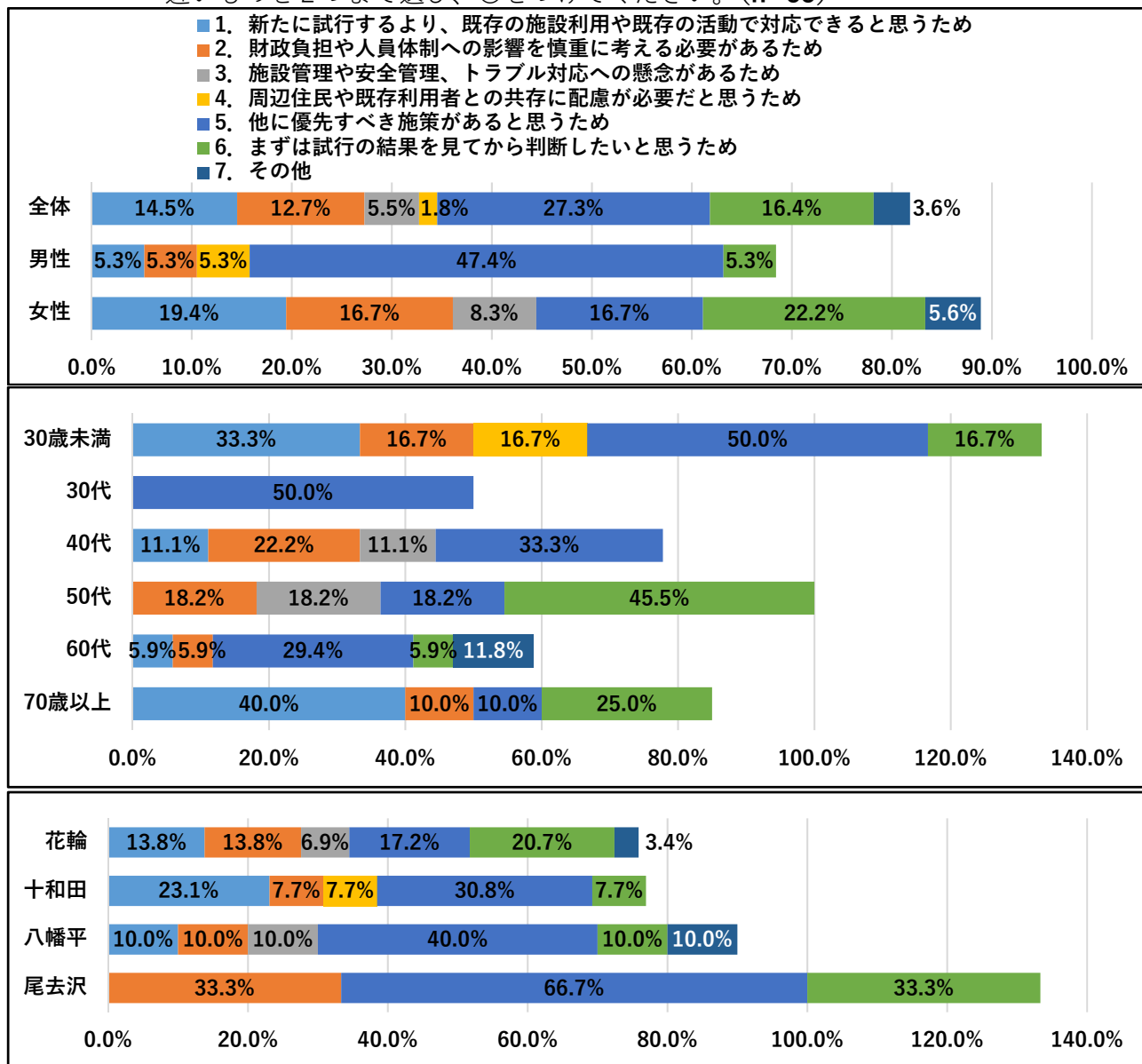
【分析概要】

▶ 全体の60.0%が「積極的に進めるべきだと思う」又は「まずは試行し、効果を見ながら進めるべきだと思う」と回答しており、試行を含め、取組を進めることに肯定的な回答が過半数を占めています。

▶ 年代別に見ると、肯定的な回答の割合は30歳代が83.4%で最も高く、次いで30歳未満が63.2%となっています。また、最も低い60歳代でも50.8%であり、すべての年代で過半数を占めています。

▶ 一方、「既存の活動や施設利用の充実を優先すべきだと思う」と「財政負担や人員体制を踏まえ、慎重に検討すべきだと思う」を合わせると25.0%となっており、取組を進める際には、既存事業との役割分担や財政・運営体制について丁寧に示す必要があります。

設問 11①-2 ①で5または6を選択した方におたずねします。その理由として、あなたの考えに近いものを2つまで選び、○をつけてください。(n=55)



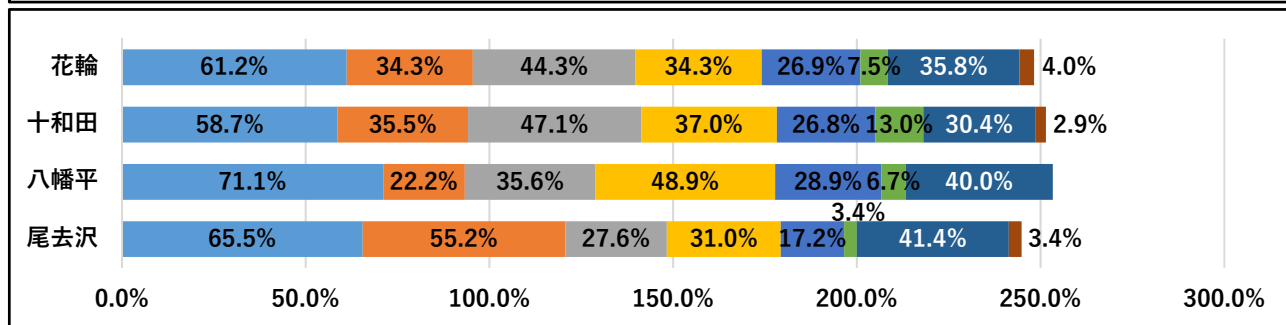
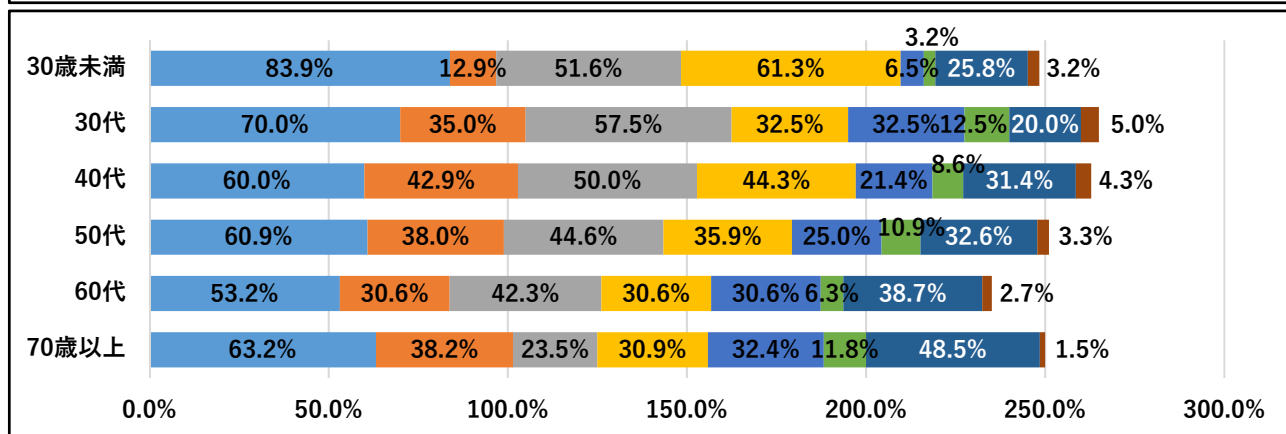
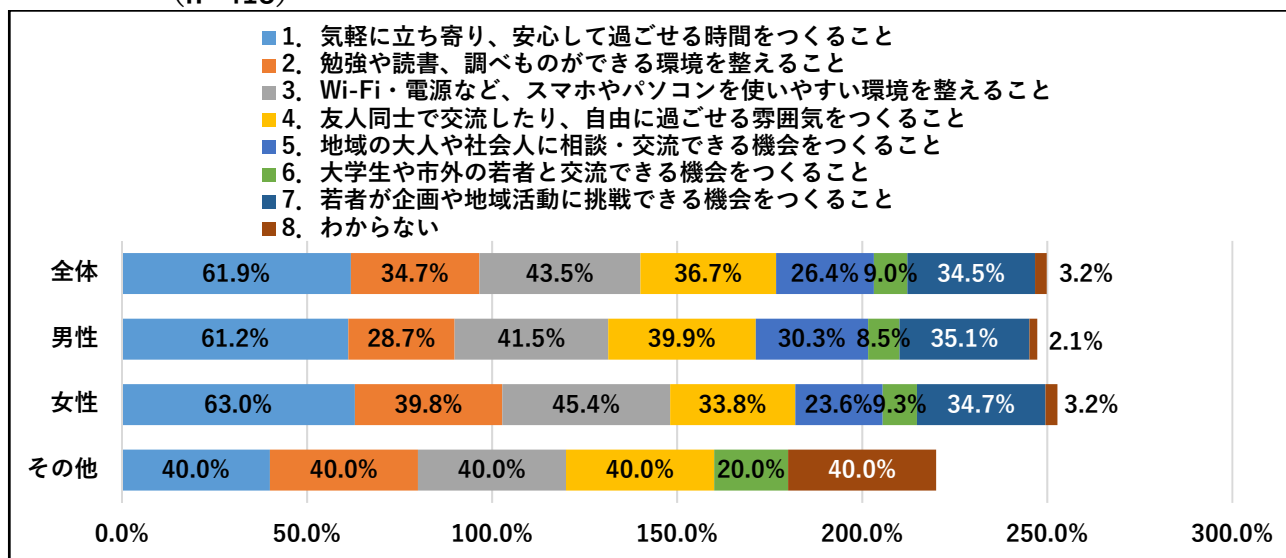
【分析概要】

▶「必要性をあまり感じない」又は「わからない」と回答した人の理由としては、「他に優先すべき施策があると思うため」が27.3%で最も高く、次いで「まずは試行の結果を見てから判断したいと思うため」が16.4%、「新たに試行するより、既存の施設利用や既存の活動で対応できると思うため」が14.5%となっています。

▶最も多かった「他に優先すべき施策があると思うため」という回答から、取組の必要性だけでなく、他の施策との優先順位や費用対効果を明確にすることが求められています。

▶また、「まずは試行の結果を見てから判断したい」という回答も一定数みられることから、現時点で取組そのものに反対しているとは限らず、試行によって効果や課題を検証し、その結果を示すことが判断材料になると考えられます。

設問 11② ①で1～4を選んだ方におたずねします。中高生や若者が立ち寄れる場を試行する場合、特に重視すべき内容は何だと思いますか。3つまで選び、○をつけてください。
(n=413)



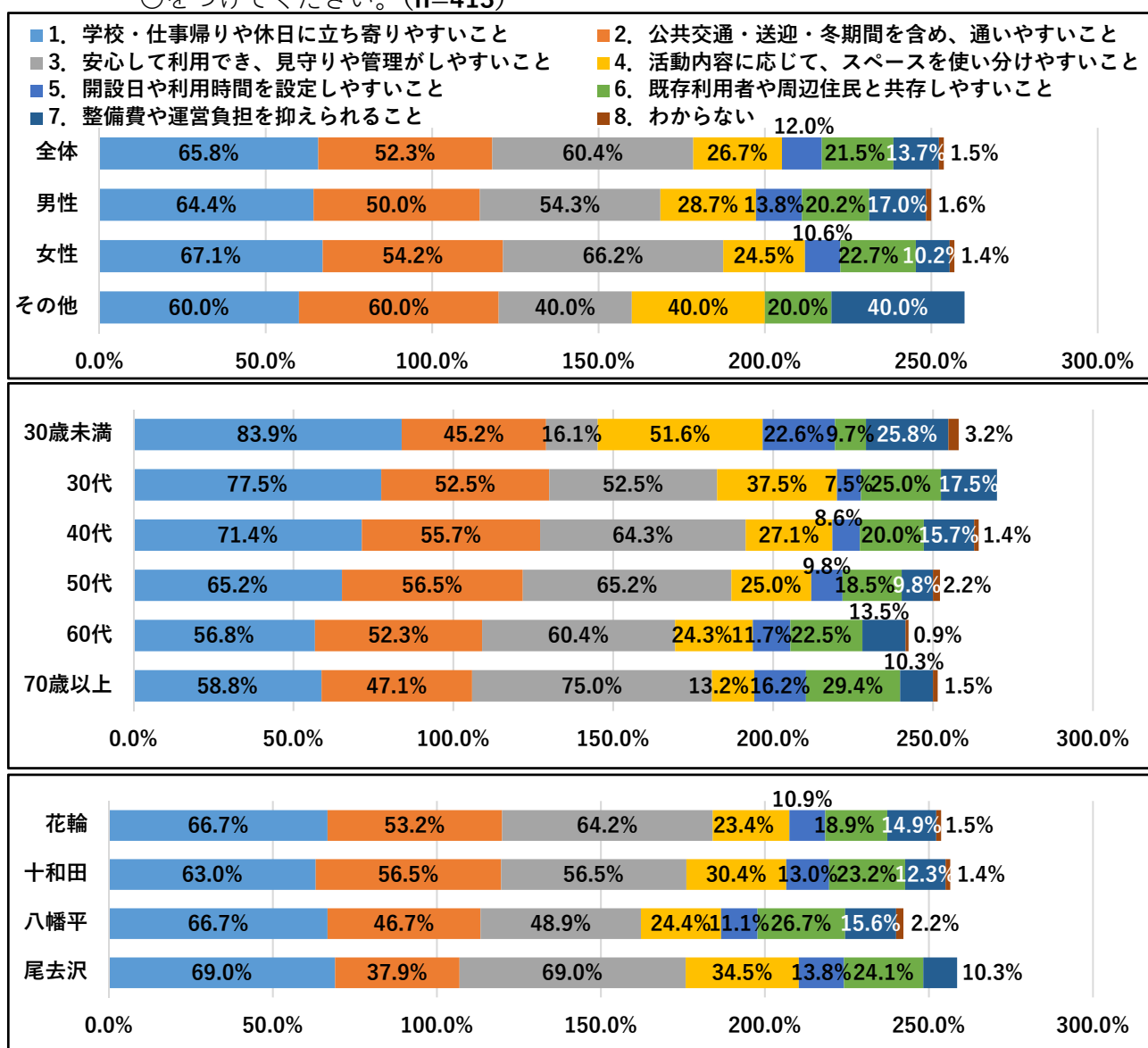
【分析概要】

▶全体では、「気軽に立ち寄り、安心して過ごせる時間をつくること」が 61.9%で最も高く、次いで「Wi-Fi・電源など、スマートフォンやパソコンを使いやすい環境を整えること」が 43.5%、「友人同士で交流したり、自由に過ごせる雰囲気をつくること」が 36.7%となっています。

▶年代別に見ると、30歳未満では「気軽に立ち寄り、安心して過ごせる時間をつくること」が 83.9%、「友人同士で交流したり、自由に過ごせる雰囲気をつくること」が 61.3%と高く、安心して自由に過ごせる居場所としての機能が特に重視されています。

▶一方、30歳代では Wi-Fi・電源などの利用環境、40歳代では勉強や読書ができる環境への回答も比較的高くなっています。このことから、安心して過ごせる居場所を基本としながら、デジタル利用、学習、交流などの複数の機能を組み合わせることが求められています。

設問 11③ ①で1～4を選んだ方におたずねします。中高生や若者が立ち寄れる場を試行する場合、場所や運営の条件として特に重視すべき内容は何だと思いますか。3つまで選び、○をつけてください。(n=413)



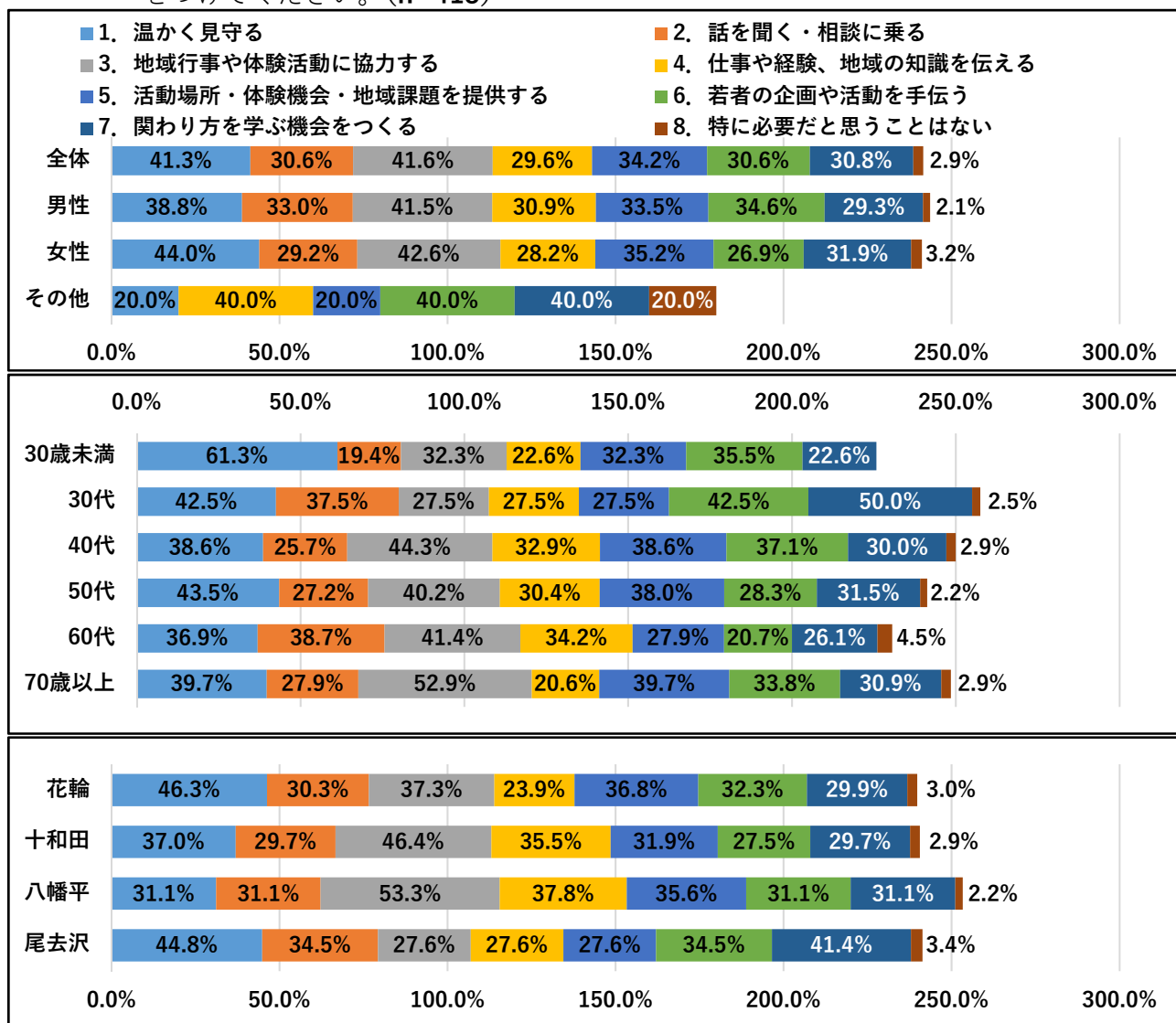
【分析概要】

▶利用環境の条件としては、「学校・仕事帰りや休日に立ち寄りやすいこと」が 65.8%で最も高く、次いで「安心して利用でき、見守りや管理がしやすいこと」が 60.4%、「公共交通・送迎・冬期間を含め、通いやすいこと」が 52.3%となっています。

▶このことから、施設の内容だけでなく、立地や開設時間、移動手段、安全管理など、実際に継続して利用できる環境を整えることが重要であると考えられます。

▶年代別に見ると、30 歳未満では「学校・仕事帰りや休日に立ち寄りやすいこと」が 83.9%と特に高い一方、70 歳以上では「安心して利用でき、見守りや管理がしやすいこと」が 75.0%と高くなっています。年代によって、利用者としての立ち寄りやすさと、支える側から見た安全性の重視度に違いがみられます。

設問 11④ ①で1～4を選んだ方におたずねします。このような取組を地域で支えていくためには、地域の大人や市民にどのような関わり方が必要だと思いますか。3つまで選び、○をつけてください。(n=413)



【分析概要】

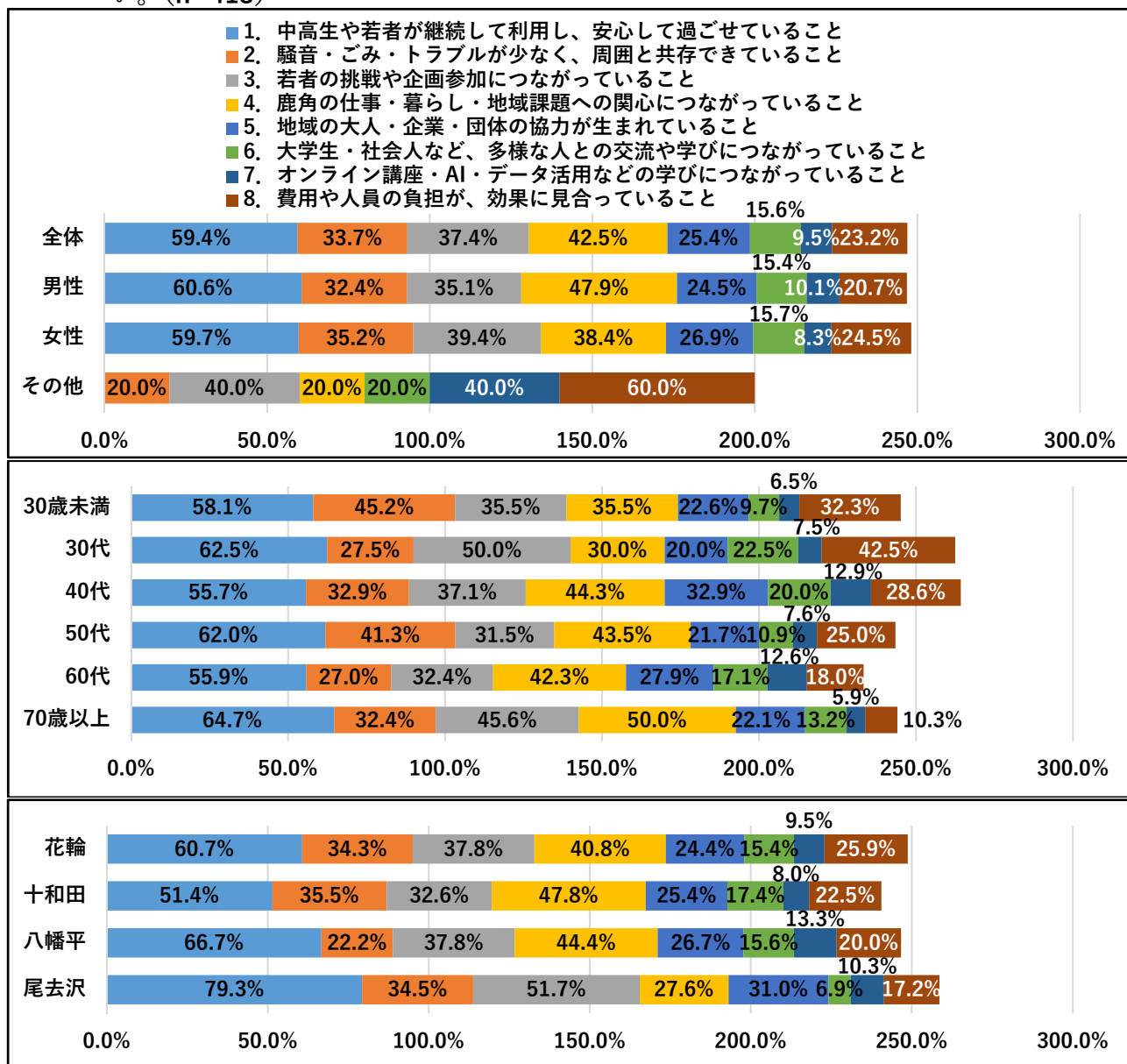
▶地域の大人や市民に期待する関わり方としては、「地域行事や体験活動に協力する」が41.6%で最も高く、次いで「温かく見守る」が41.3%、「活動場所・体験機会・地域課題を提供する」が34.2%となっています。

▶年代別に見ると、30歳未満では「温かく見守る」が61.3%で最も高く、過度に干渉せず、若者が安心して活動できる環境を支える関わり方が重視されています。一方、70歳以上では「地域行事や体験活動に協力する」が52.9%で最も高く、実際の活動に参加・協力する関わり方が重視されています。

▶また、30歳代では「関わり方を学ぶ機会をつくる」が50.0%で最も高くなっています。若者を支える側に対しても、適切な距離感や支援方法を学ぶ機会を設ける必要があることがうかがえます。

▶「特に必要だと思わない」は全体の2.9%にとどまっており、多くの市民が、方法は異なるものの、地域が何らかの形で若者を支える必要があると考えていることがうかがえます。

設問 11⑤ ①で1～4を選んだ方におたずねします。こうした取組を試行した後、継続・発展を判断する際に、特に重視すべきことは何だと思いませんか。3つまで選び、○をつけてください。(n=413)

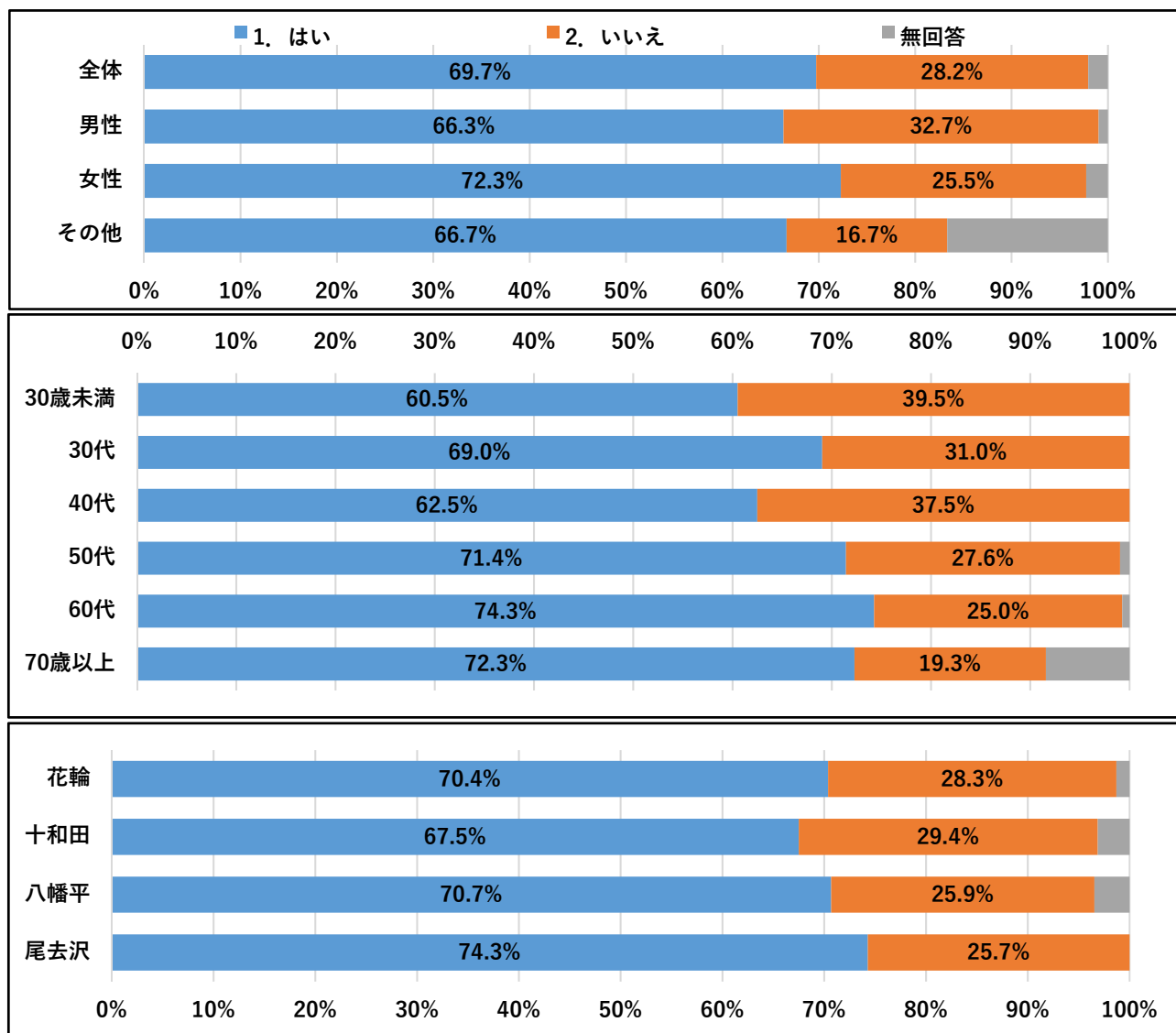


【分析概要】

- ▶取組の継続・発展を判断する際に重視すべき点としては、「中高生や若者が継続して利用し、安心して過ごさせていること」が59.4%で最も高くなっています。
- ▶次いで、「鹿角の仕事・暮らし・地域課題への関心につながっていること」が42.5%、「若者の挑戦や企画参加につながっていること」が37.4%となっています。このことから、単に利用者数を確保するだけでなく、地域への関心や若者の主体的な活動につながっているかを検証することが求められています。
- ▶一方、「騒音・ごみ・トラブルが少なく、周囲と共存できていること」は33.7%、「費用や人員の負担が、効果に見合っていること」は23.2%となっています。継続・発展の判断に当たっては、若者への効果に加え、周辺との共存や運営負担も含めて総合的に評価する必要があります。

11 医療に対する意識について

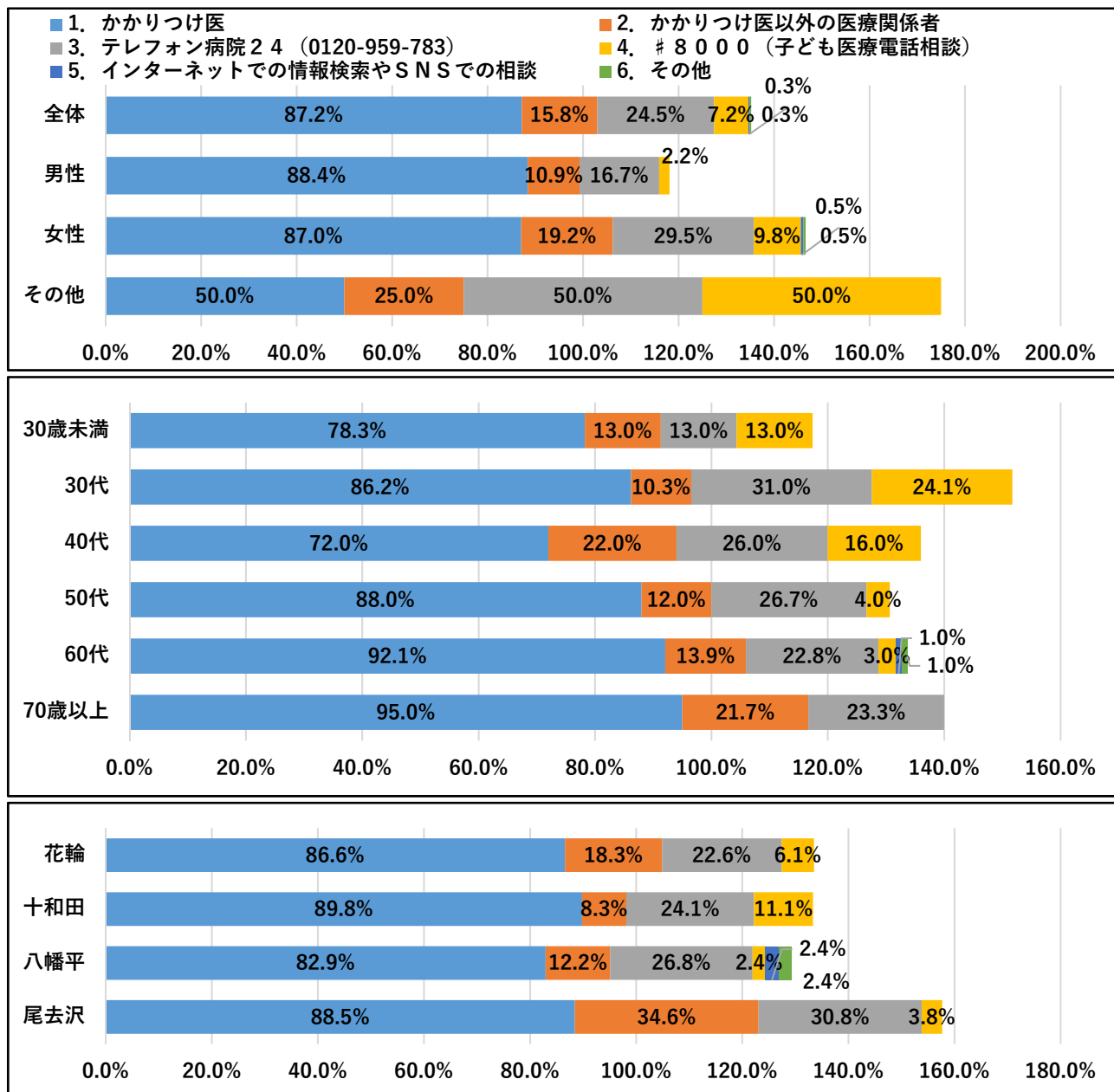
設問 12① あなたや家族の具合が悪くなったとき、どこで受診したらよいか相談できる窓口として、知っているものはありますか。



【分析概要】

- ▶ 具合が悪くなったとき、どこで受診したらよいか相談できる窓口を知っている人の割合は 69.7% となっています。
- ▶ 50 歳代以上で 70% を超えているのは、医療機関を利用する機会が多くなることが理由の一つと考えられます。また、女性（72.3%）の方が男性（66.3%）と比較し、割合が高くなっています。

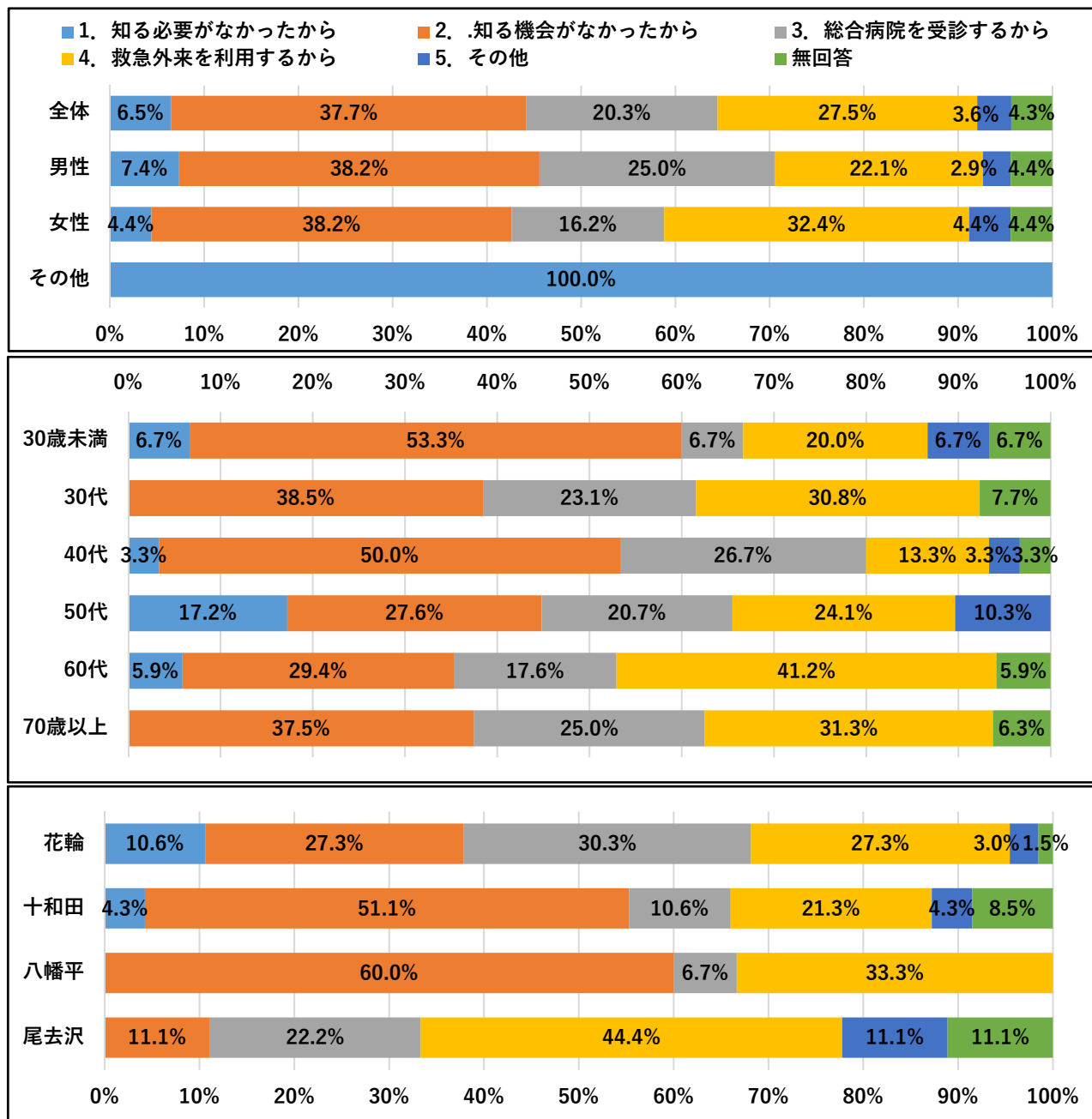
設問 12①（続き） 知っている相談窓口は次のうちどれですか（複数選択可）（n=339）



【分析概要】

- ▶相談窓口を知っている人は、その 87.2%の人がかかりつけ医を相談窓口に挙げています。
- ▶一方、市が平成 29 年度から実施している「テレホン病院 24」を相談窓口として挙げる人は 24.5%にとどまっており、特に 30 歳未満が 13.0%と最も認知度が低くなっています。

設問 12② (設問①で 2 と回答した方のみ) 相談窓口を知らなかった理由はなんですか。(n=138)

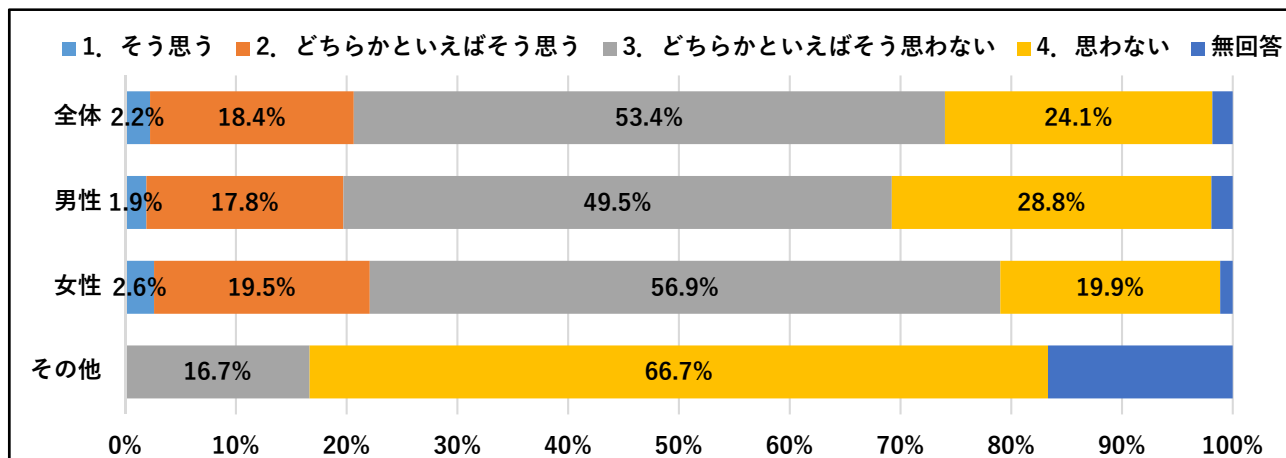


【分析概要】

- ▶ 相談窓口を知らなかった理由として最も多かったのは、「知る機会がなかったから」で、37.7%となっています。次いで「救急外来を利用するから」が27.5%、「総合病院を受診するから」が20.3%となっています。
- ▶ 「知る機会がなかったから」を挙げた人は、30歳未満と40歳代で50%を超えており、比較的若い世代への周知方法を考える必要があります。
- ▶ 「総合病院を受診するから」を挙げた人は男性に多く、世代別では40歳代が26.7%と最も多くなっています。「救急外来を利用するから」は女性が多く、世代別では60歳代が41.2%で最も多くなっています。

12 まちの満足度について

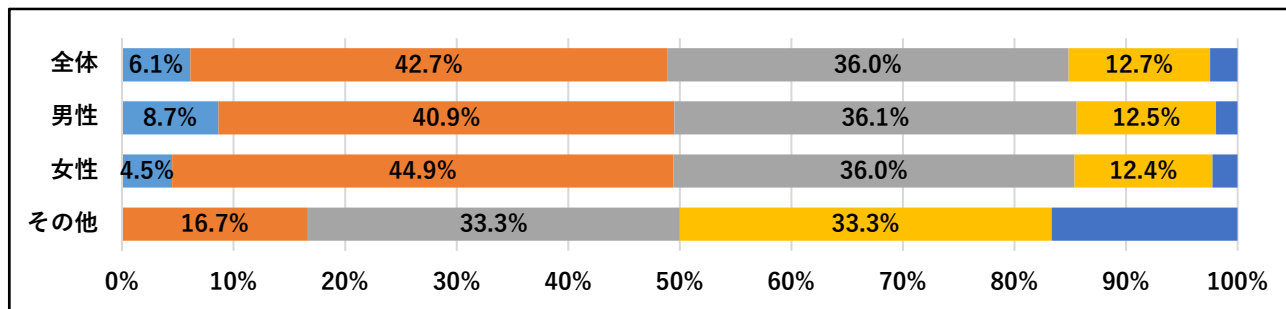
設問 13① あなたは、鹿角市の産業（会社、店舗、農業など）は元気で活力があると思いますか。



【分析概要】

▶R1 基準値（19.5%）より 1.1 ポイント増加。男性は 4.2 ポイント増、女性は 1.8 ポイント減。

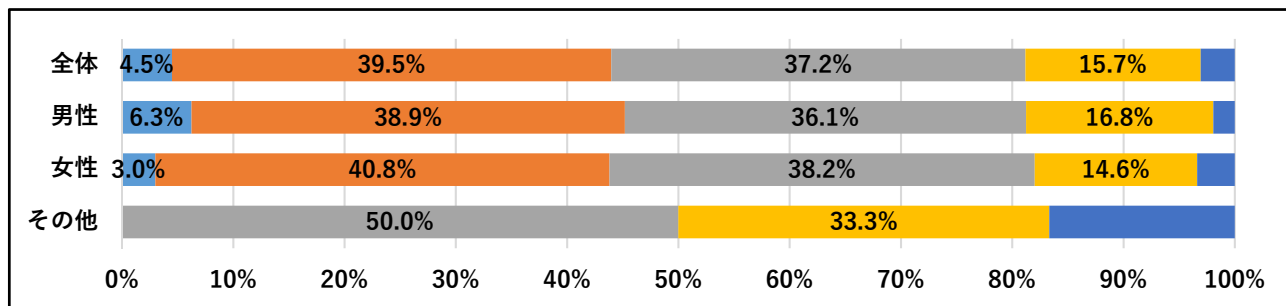
設問 13② あなたは、鹿角市が心身ともに健康な暮らしができるまちだと思いますか。



【分析概要】

▶R1 基準値（58.7%）より 9.9 ポイント減。男性は 6.2 ポイント、女性は 11.4 ポイント減。

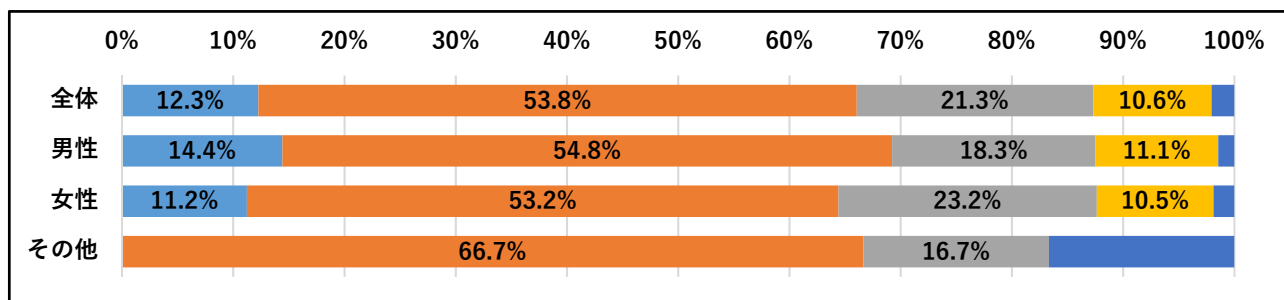
設問 13③ あなたは、鹿角市は生活環境が快適なまちだと思いますか。



【分析概要】

▶R1 基準値（49.7%）より 5.7 ポイント減。男性は 0.8 ポイント、女性は 8.7 ポイント減。

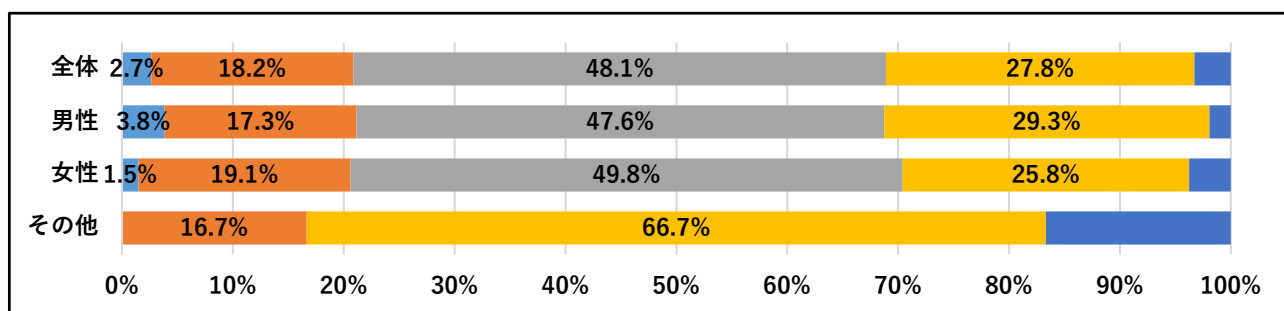
設問 13④ あなたは、鹿角市が安全で安心して暮らせるまちだと思いますか。



【分析概要】

▶R1 基準値（77.6%）より 11.5 ポイント減。男性は 8.7 ポイント、女性は 13.9 ポイント減。

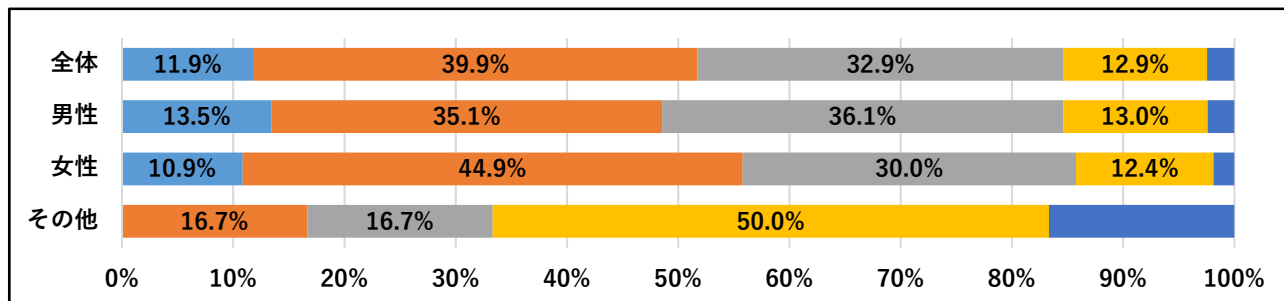
設問 13⑤ あなたは、鹿角市が市外から人が訪れたい魅力のあるまちだと思いますか。



【分析概要】

▶R1 基準値（23.4%）より 2.5 ポイント減少。男性は 2.8 ポイント、女性は 1.8 ポイント減。

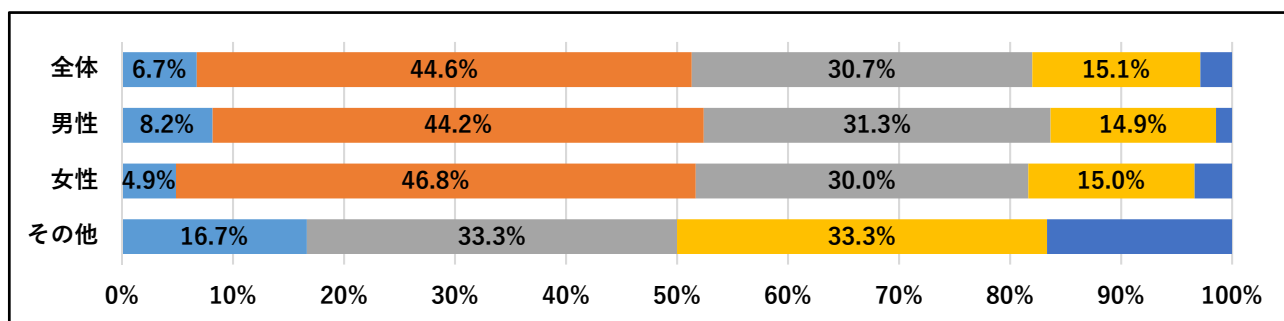
設問 13⑥ あなたは、鹿角市は文化遺産が豊富で誇れるまちであると思いますか。



【分析概要】

▶R1 基準値（51.3%）より 0.5 ポイント増加。男性は 6.7 ポイント減、女性は 7.9 ポイント増。

設問 13⑦ あなたは、自分に必要な行政サービスが受けられていると思いますか。



【分析概要】

▶R1 基準値（59.8%）より 8.5 ポイント減少。男性は 10.0 ポイント、女性は 6.1 ポイント減。